ふじのくに
美しく品格のある邑（むら）

Beautiful and Graceful Villages in “FUJINOKUNI”

150

訪れたこともないのになぜか懐かしさを感じる日本のふるさと。
四季折々の景観や人々の営み、
大切に引き継がれてきた伝統文化に触れてみると畏敬の念さえ抱かされます。
また、農山村地域の素朴な人の温かさに触れると心が満たされる感覚を覚えます。

近年このような心満たされる農山村地域では、
環境保全活動に参画する来訪者が増え、
新たな交流により活気が蘇り笑顔が溢れる地域が多くなりました。

「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」は、
農業者と地域内外の人々が共に地域の将来を考えて行動し、
幸福感を共有できるコミュニティーを創造する取組で、
静岡県内の農山村が笑顔と活力あふれる地域となることを目指しています。
取組を始めてから、「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」は10周年を迎えました。

この冊子では「ふじのくに美しく品格のある邑」の魅力に加え、
持続可能な開発目標（SDGs）達成につながる活動事例を紹介しています。

農山村地域に眠る宝や輝かしい活動に触れ、
「ふじのくに美しく品格のある邑」と皆さまとの新たな繋がりが
生まれるきっかけになれば幸いです。

邑づくりの変遷

令和4年
2022
つなぐ棚田遺産
県内9棚田認定

令和3年
2021
美しく品格のある邑
150邑登録達成

平成29年2月6日
2017
5周年セミナー

平成28年
2016
むらサポ発足

平成27年
2015
美しく品格のある邑
100邑登録達成

平成25年
2013
美しく品格のある邑
50邑登録達成

平成24年4月24日
2012
初総会

平成24年2月23日
2012
連合設立宣言
（県内全35市町が参画）

平成23年1月27日
2011
連合設立準備会
（県内17市町が参画）

平成20年
2008
しずおか棚田・
里地くらぶ改組

平成18年
2006
一社一村しずおか運動
取組開始

平成11年
1999
しずおか棚田くらぶ
設立

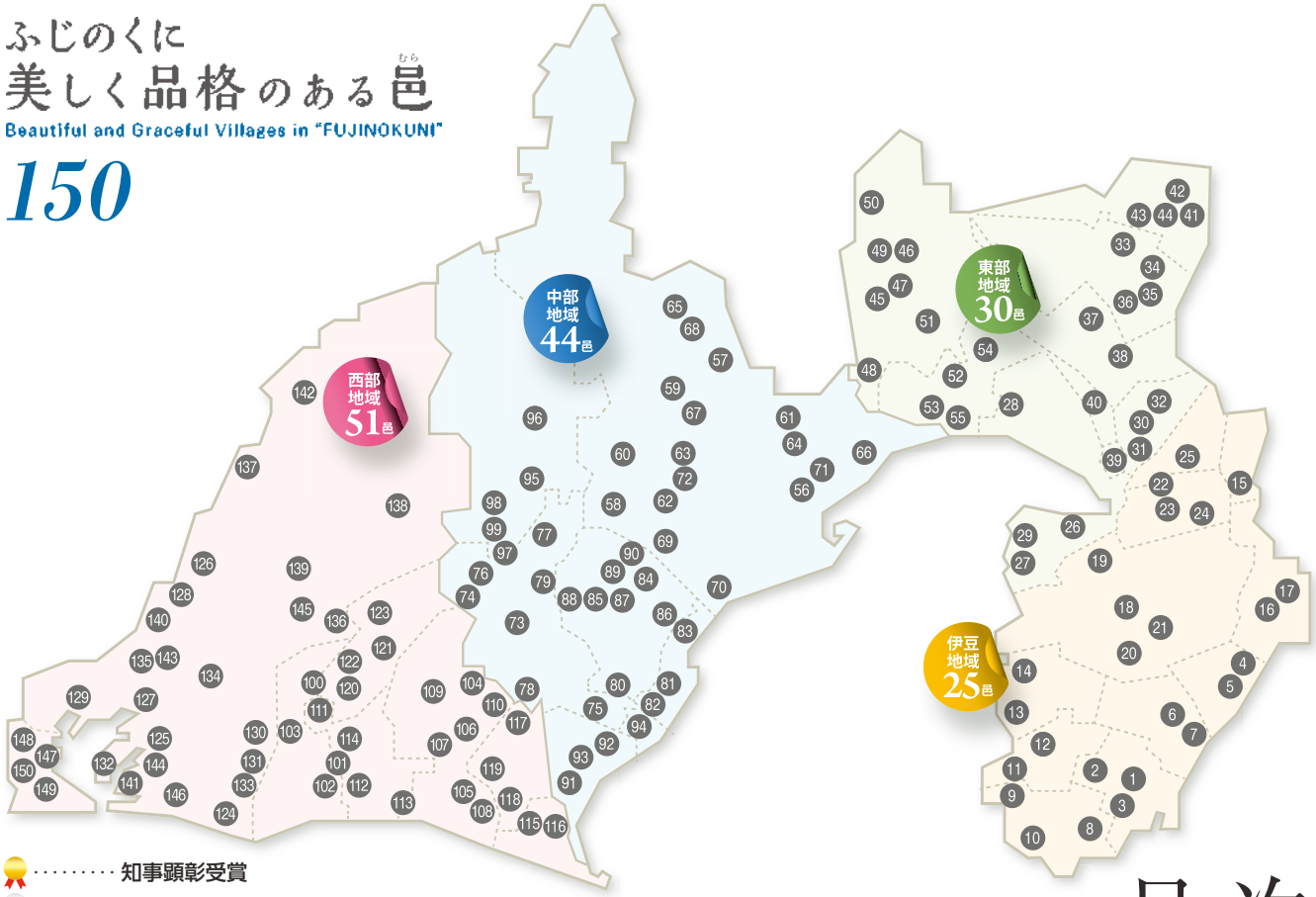
ふじのくに美しく品格のある邑づくり連合とは

県内 35 市町と県が組織し、加盟市町の推薦を受けた地域（邑）について審査・登録を行い、「美しく品格のある邑」のブランド化を図り、持続的な地域づくりを推進します。
また、広報活動や農山村地域にある地域資源の保全継承、地域資源を活用した取組等を支援します。

松崎町長による連合設立宣言

ふじのくに
美しく品格のある邑（むら）
Beautiful and Graceful Villages in "FUJINOKUNI"

150



知事顕彰受賞
連合奨励賞受賞

令和4年12月31日時点

目次
contents

伊豆地域

1 下大沢 …… P6
2 加増野 …… P7
3 大賀茂 …… P8
4 大川 …… P9
5 奈良本 …… P10
6 上佐ヶ野わくわくの里 …… P11
7 伊豆見高入谷高原 …… P12
8 日野 元気な百姓達の里 …… P13
9 伊浜地区 …… P14
10 海の里 吉田村 …… P15
11 石部赤根田村百笑の里 …… P16
12 那賀地区 …… P17
13 中 …… P18
14 宇久須 …… P19
15 日本一のだいだいの里「多賀」 …… P20
16 十足 …… P21
17 富戸吉田 …… P22
18 伊豆月ヶ瀬梅の里 …… P23
19 桂流コシヒカリのふる里 …… P24
20 いずのやね茅野 …… P25
21 日本一の水わさびの邑 …… P26
22 韮山多田 …… P27
23 韮山金谷 …… P28
24 浮橋 …… P29
25 丹那 …… P30

東部地域

26 寿太郎みかんのふるさと 西浦 …… P32
27 戸田 …… P33
28 浮島 …… P34
29 夢むら井田 …… P35
30 三島箱根西麓地区 …… P36
31 中郷地区 …… P37
32 山田川自然の里 …… P38
33 西澤水系 …… P39
34 沼田ロマンチック街道 …… P40
35 二子湧水の里 …… P41
36 せせらぎ中清水 …… P42
37 パノラマ遊花の里 …… P43
38 深良地区 …… P44
39 久米田 …… P45
40 上長窪地区 …… P46
41 所領 …… P47
42 金太郎産湯の里湯船 …… P48
43 上野美農里の会 …… P49
44 吉久保日吉の里 …… P50
45 柚野の里 …… P51
46 白糸の里 …… P52
47 南条の里 …… P53
48 内房の里 …… P54
49 天子ヶ岳の里 …… P55
50 五感で癒される湧水の里いのかしら …… P56

51 羽鮒の里 P57
52 岩本山とかりがね堤を守る邑 P58
53 富士山のふもとの郷を守る邑 P59
54 大淵笹場 P60
55 はるやま 21 P61

中部地域

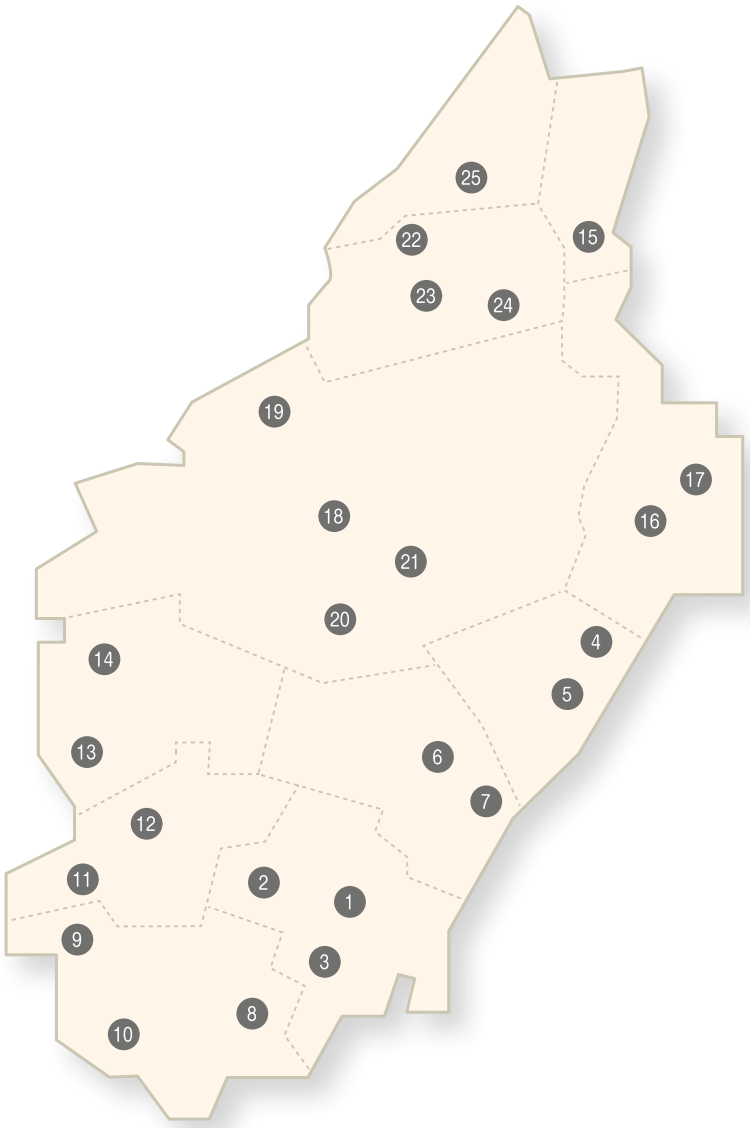
56 原・新丹谷 P63
57 有東木 P64
58 清沢 P65
59 大沢地区 P66
60 奥藁科・大川 P67
61 清水区西里 P68
62 水見色 P69
63 奥長島 P70
64 布沢 P71
65 大代 P72
66 浜石岳と八千代の桜 P73
67 玉川 P74
68 梅ヶ島 P75
69 小瀬戸 P76
70 小坂 P77
71 茂畑 P78
72 足久保 P79
73 神座鵜網 P80
74 越地 P81
75 湯日 P82
76 抜里 P83
77 ささま P84
78 間の宿 菊川 P85
79 いくみ P86
80 東町 P87
81 中の島 P88
82 西島 P89
83 方ノ上 P90
84 殿 P91
85 本郷 P92
86 岡部本郷 P93
87 葉梨山水会 P94
88 滝沢・滝の谷 P95
89 市之瀬 P96
90 玉取 P97
91 菅山原 P98
92 坂部 P99
93 蛭ケ谷 P100
94 吉田たんぼ P101
95 徳山 P102
96 池の谷・閑蔵 P103
97 地名 P104
98 けっこい瀬平 P105
99 縁結びの村くのわき P106

西部地域

100 敷地村 P108
101 とんぼの里 岩井 P109
102 田原地区 P110
103 岩田 P111
104 茶文字の里 東山 P112
105 高天神の里 P113
106 東山口・西山口 P114
107 掛川天守をのぞむ里 P115
108 そよかぜ広場 P116
109 報徳・温泉・農業の里倉真 P117
110 深蒸し茶と東海道宿場の里 日坂 P118
111 源氏とひまわりの里 P119
112 諸井里山の会 P120
113 とうもんの里 P121
114 いまい保全の会 P122
115 カカシ祭りの里 新野 P123
116 朝比奈 P124
117 千框の棚田 P125
118 嶺田用水の里 P126
119 こがね色の里 P127
120 森町南部 P128
121 天方 P129
122 一の宮の里 P130
123 歴史と自然が奏でる里山 三倉 P131
124 地域いきいき共生! 恩地町環境みどり会 P132
125 和地ふるさと会 P133
126 夢未来くんま P134
127 銅鐸と水田のふるさと中川 P135
128 大好き! 渋川 P136
129 三ヶ日みかんの里 P137
130 中郡地区 P138
131 中ノ町地区 P139
132 村櫛地区 P140
133 大塚地区 P141
134 都田地区 P142
135 ～竜ヶ石山～西四村の里 P143
136 いっぷく処横川 P144
137 そばの里づくり 佐久間 P145
138 はるの山の村 P146
139 ほっと龍山 P147
140 ひずるしい鎮玉 P148
141 らびりんすゆうとう P149
142 水窪地区 P150
143 久留女木の棚田～竜宮小僧伝説の邑～ P151
144 美竹林と極旨野菜の里 P152
145 花桃の里 P153
146 潮騒響くたまねぎの里篠原 P154
147 新所水とみどりのプロジェクト P155
148 神座里山多夢の会 P156
149 佐吉の里・山口 P157
150 日本一前向きな地区! 前向 P158

伊豆地域

伊豆地域25邑



❶下大沢 …… P6
❷加増野 …… P7
❸大賀茂 …… P8
❹大川 …… P9
❺奈良本 …… P10
❻上佐ヶ野わくわくの里 …… P11
❼伊豆見高入谷高原 …… P12
❽日野 元気な百姓達の里 …… P13
❾伊浜地区 …… P14
❿海の里 吉田村 …… P15
⓫石部赤根田村百笑の里 …… P16
⓬那賀地区 …… P17
⓭中 …… P18
⓮宇久須 …… P19
⓯日本一のだいだいの里「多賀」 …… P20
⓰十足 …… P21
⓱富戸吉田 …… P22
⓲伊豆月ヶ瀬梅の里 …… P23
⓳桂流コシヒカリのふる里 …… P24
⓴いずのやね茅野 …… P25
㉑日本一の水わさびの邑 …… P26
㉒韮山多田 …… P27
㉓韮山金谷 …… P28
㉔浮橋 …… P29
㉕丹那 …… P30

下大沢

しもおおさわ

●下田市のマチュピチュ

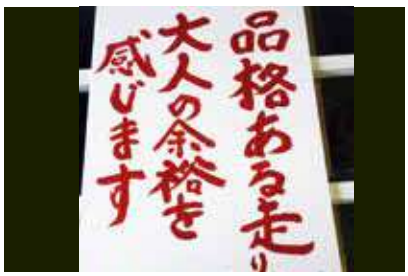
●邑の各地にある交通安全看板

のどかなミカンの絶景の里

蓮台寺温泉郷の西北部、下田市で一番高い山の懐にある下大沢は、標高100～150mに位置する集落で、「辻の段」と呼ばれる頂には、邑の安全を守る道祖神と秋葉権現が祀られ、古道に建つ庚申塔とともに、「下田まち遺産」になっています。

地域住民が作る ユニークな交通安全看板!

地域活性化グループ「山里会」が平成4年より、生活道路沿いにユーモアたっぷりの交通安全看板を設置しており、里の名物となっています。3，4年毎に古くなった看板は一枚一枚挿し絵や字体にこだわり、リニューアルがなされています。



●ユーモアたっぷりの看板も

●開国下田紅茶

●下大沢を評する農産物「甘夏みかん」

下田市

加増野

かぞうの

●のどかな風景が広がる邑

●農産物加工施設「加増野ポーレポーレ」※体験メニューについては現在休止中。

邑のシンボル「加増野ポーレポーレ」

ポーレポーレはスワヒリ語で「ゆっくりのんびり」という意味で、この言葉どおり、穏やかな田舎時間が流れいます。ここでは、蕎麦打ちや石窯と間伐材で焼くピザ、こんにゃく、シイタケの菌打ちなど、ありとあらゆる農山村の手仕事を体験メニューとして企画してきました。

地域ぐるみで活性化

地域では、加増野ポーレポーレの運営のほかに、大豆や小麦、つるくびカボチャの栽培など、荒廃農地の再生活動も行ってきました。地場大豆を使った手作りの味噌は、市内の農産物直売所等で販売され、好評を得ています。

●県道沿いに農地が広がる

●報本寺

●穏やかな時間が流れる加増野地区

下田市

大賀茂

おおがも

●人々の目を引くこいのぼり

●邑を支える様々な団体の皆さん

力を合わせて邑を守る

大賀茂は、古くからの営みが続く自然豊かな邑。年に1回区民総出で地域の清掃活動が実施されており、みんなで協力して美しい里山の景色を守っています。最近では後継者不足に悩む農地で新たに稲作を始める人もおり、農地の保全にもつながっています。

子どもらの健やかな成長を願って

大賀茂地区内にある吉佐美駐車場の近くの田んぼには、毎年4月ごろ、幅約100mほどに渡りこいのぼりの群れが揚がります。地域を明るく元気にしようと、大賀茂地区振興委員会によってこの活動が続けられており、住民やドライバーの目を引いています。

●「下田まち遺産」の大賀茂大祭

●冬のほ場を飾るイルミネーション

●柿とみかんの栽培が盛ん

大川

おおかわ

●大川三島神社大祭

●「ほたる鑑賞の夕べ」が行われる竹ヶ沢公園

伝統文化を守っていくために

伝統文化を守り続ける邑、大川。毎年10月に行われる大川三島神社の秋祭りでは、伝統芸能の三番叟の奉納があります。老若男女全ての邑人が役割を担い、一カ月以上前から祭りの準備が行われます。祭りを通じて深まる絆が、地域づくりへの協力の高さにもつながっています。

美しい庭園とホタルの舞い

大川にある竹ヶ沢公園には、県のみずべ百選にも選ばれた美しい池を持つ日本庭園があります。ここでは幻想的なホタルの舞いを見ることができ、6月開催の「ほたる鑑賞の夕べ」では、ホタル鑑賞の他「ちょうちんウォーク」や「ほたる市」などでにぎわいます。

●大川名物の公共露天風呂「磯の湯」

●急傾斜地に広がる柑橘畑

●地元の子どもたちで賑わうアマゴのつかみ取り大会

東伊豆町

奈良本

ならもと

●奈良本けやき公園で行われる朝市

●ゲンジボタルが光り輝く夜の奈良本けやき公園

手作りで育むホタル飛び交う里

奈良本地区の有志で発足した「奈良本ホタルの会」は、かつて自然に生育していたホタルを、試行錯誤を重ねながら「奈良本けやき公園」に復活させました。現在はホタル祭りを開催するまでになり、手作りのホタル小屋で養殖、放流を根気強く繰り返した賜物です。

吹き始めた新しい風

地域おこし協力隊による「奈良本けやき公園」の活性化に向けた取り組みがはじまりました。公園内にある「きぼうの館」を活用し、ワーケーションスペースやカフェを運営。地域の人や観光客との憩いや交流の場として活用していきます。

●手作りのホタル小屋での養殖

●地元食材を使ったランチが食べられる「けやきcafe」

●コミュニティー施設「きぼうの館」

河津町

上佐ヶ野わくわくの里

かみさがのわくわくのさと

●美しい地層をつくる鉢ノ山

●摘み取り取り体験ができる「河津ブルーベリーの里」

「鉢ノ山」のブルーベリー園

地元有志で経営する「河津ブルーベリーの里」は、夏場の約1ヶ月の間オープンし、子どもから大人まで楽しめる人気スポットです。新たにブルーベリーオーナー制度も始まり、県内外の方々がオーナーとしてブルーベリー狩りを楽しんでいます。

かき氷が人気です!

「河津ブルーベリーの里」は、夏の期間中、多くの家族連れで賑わっており、地域農産物をはじめ、ブルーベリーかき氷やジャムなどの販売が行われ、来園者から好評を得ています。そのため、来園者の約8割がリピーターともいわれています。

●ブルーベリーかき氷

●鉢ノ山散策も人気

●三段滝を滑りおりるキャニオニング体験

河津町

伊豆見高入谷高原

いずみだかいりやこうげん

●農免農道から見下す相模湾

●地区内のみかん畑

地域の絆で邑を守る

困ったら誰かが協力してくれる、住民の絆が強い伊豆見高入谷高原地区。区民一丸となって邑づくりに取り組んでいます。地域づくりの一環として、水路や道路の維持管理のほかに、観光との連携も前向きに取り組んでいます。

都市住民からも人気の絶景

温州みかんやニューサマーオレンジなどの柑橘を中心に、様々な作物が栽培されています。地区内には農免農道が整備され、周辺農用地の管理保全に役立っています。農免農道からは、相模湾の絶景が見下ろすことができ、観光客に人気のスポットとなっています。

●ハウスミカン

●天王神社祭典

●ブルーベリー観光農園

南伊豆町

日野 元気な百姓達の里

ひんの　げんきなひゃくしょうたちのさと

●日野に広がる菜の花畑

●菜の花の種まきを手伝う地元小学生たち

南伊豆の春一番を彩る菜の花畑

日野に広がる菜の花畑は、約30年前から南伊豆町農業振興会の地道な整備活動に支えられています。毎年10月に行われる元気な百姓祭では、花畑の近隣にある小中学校の児童・生徒たちが菜の花の種まきを手伝い、地元の有志も遊休農地の草刈りに参加しています。

道の駅「下賀茂温泉湯の花」

道の駅「下賀茂温泉湯の花」は農地を守り、農業などの地域活力の維持の一翼を担っています。約500人の登録地元生産者が毎日、畑直送の野菜を出荷するほか、米は直売所の負担で通年一割引きで販売。作り手の生産意欲を高めながら、地産地消にも貢献しています。

●青野川の両岸にある美しい河津桜

●道の駅内の農林水産物直売所

●地元で栽培されているお米

南伊豆町

伊浜地区

いはまちく

●マーガレットの里伊浜地区

●マーガレット栽培

あたたかい太陽の恵み 環境が花と人を育む邑

南伊豆町の北西、海沿いに位置する伊浜地区。全国有数のマーガレット産地です。駿河湾上空の太陽がサンサンと照りつける伊浜は伊豆半島で最も温暖な地域。その地の利を活かし、マーガレット栽培が昭和6年から始まり、以来80年以上も続いています。

おさるの楽園!「波勝崎モンキーベイ」

伊浜地区の北西に位置する東日本最大の野猿の生息地「波勝崎モンキーベイ」。約300匹のニホンザルと触れ合うことができます。動物園のサル山と違い、サルの世界に人間がお邪魔する見学スタイル。正面には青い海が広がり、ロケーションも美しい場所です。

●マーガレット狩り

●伊浜のサンセット

●おさるの楽園

南伊豆町

海の里 吉田村

うみのさと　よしだむら

●自然があふれる吉田村

●アロエ畑

外部の力を借りて活性化!

邑唯一の民宿は、全国にファンを持つ有名宿。ここのご主人は、邑の秘境さに魅了され横浜から移住。荒廃が進んでいたこの地区で、一人黙々と環境整備に取り組みました。現在では地域住民のほかに宿客のボランティアなど外部の力も借りながら邑の保全活動に取り組んでいます。

邑を彩るアロエ畑

かつては農業と漁業の半農・半漁の地域でしたが、現在はほとんどがアロエ農家。約1haで栽培されるキダチアロエは、冬季に赤い花をつけ、集落を彩ります。急峻な山地に囲まれながらも荒廃農地からビオトープを整備するなど農村環境の維持にも力を入れています。

●横浜から邑へ移住し、民宿を経営する吉田夫妻

●航海安全、安産を祈る白鳥神社

●樹齢800年超えのビャクシン（県指定天然記念物）

松崎町

石部赤根田村百笑の里

いしぶあかねだむらひゃくしょうのさと

●後世に残したい石部棚田

●県内外の多くの方が田植えに参加

棚田はみんなのふるさと

松崎町にある「石部棚田」は、約370枚の小さな田んぼが山から港に向かって連なる美しい棚田です。平成12年に復田が始まり、今では石部棚田振興協議会の活動によって県内外の多くの方が棚田オーナーになっており、邑は賑わいを見せています。

心を癒やす棚田のきらめき

石部棚田は、駿河湾越しに富士山や南アルプスを一望できる景勝地です。石部は昔「石火」と呼ばれており、岩に神が宿ることから火を燃やして海上交通の目印にしたという故事もあります。現在は棚田の畦にろうそくを灯し、往時の幻想的な光景を再現しています。

●棚田の実り（第4回農村の魅力フォトコンテスト入賞_佐藤泰弘）

●幻想的な石部の灯り（第2回農村の魅力フォトコンテスト優秀賞_藤井昭浩）

●棚田の黒米を原料にした焼酎「黒米百笑一喜」

那賀地区

なかちく

●田んぼをつかった花畑

●花畑実行委員会の皆さん

みんなでつくる、みんなの花畑

「みんなでつくる、みんなの花畑」をスローガンに約3万㎡の水田に美しい花畑を生みだすのは「花畑実行委員会」。農業者に種の播き方や肥料のやり方などを学びながら、ボランティアと共に稲刈り後の水田に種をまきます。「花とロマンの里」を謳う松崎町を代表する花畑です。

小さな町の大きな商店

花畑イベント会場に隣接する「桜田より道売店」は、地元の農家さんが栽培した採れたて野菜やかんきつ類をはじめ、手作りのまんじゅうなどの加工品を販売しています。地元の方々の手作り雑貨なども販売しており、お土産探しにぴったりの地域のアンテナショップです。

●桜田より道売店

●花畑のもう一つの見どころ「リアルかかし」（第2回農村の魅力フォトコンテスト入選_高橋浩）

●「田んぼをつかった花畑」開催中に設置される足湯

中

なか

●アガパンサスの咲く県道

●せせらぎの湯（外観）

邑を彩るアガパンサスの花

県道沿いにある花壇は、地域のボランティアで構成される「中花の会」によって管理されています。毎年6月には約1,000本のアガパンサスの花が地域を彩り、多くの人を楽しませています。

憩いの場「せせらぎの湯」

肥沃な平地と仁科川の清水に恵まれた中地区は、西伊豆町においては数少ない広大な田園地帯です。仁科川のほとりにある町営温泉施設「せせらぎの湯」は地元でも評判で、川のせせらぎを聞きながらゆったりと過ごすことができます。

●伊豆地域最大級の水田地帯

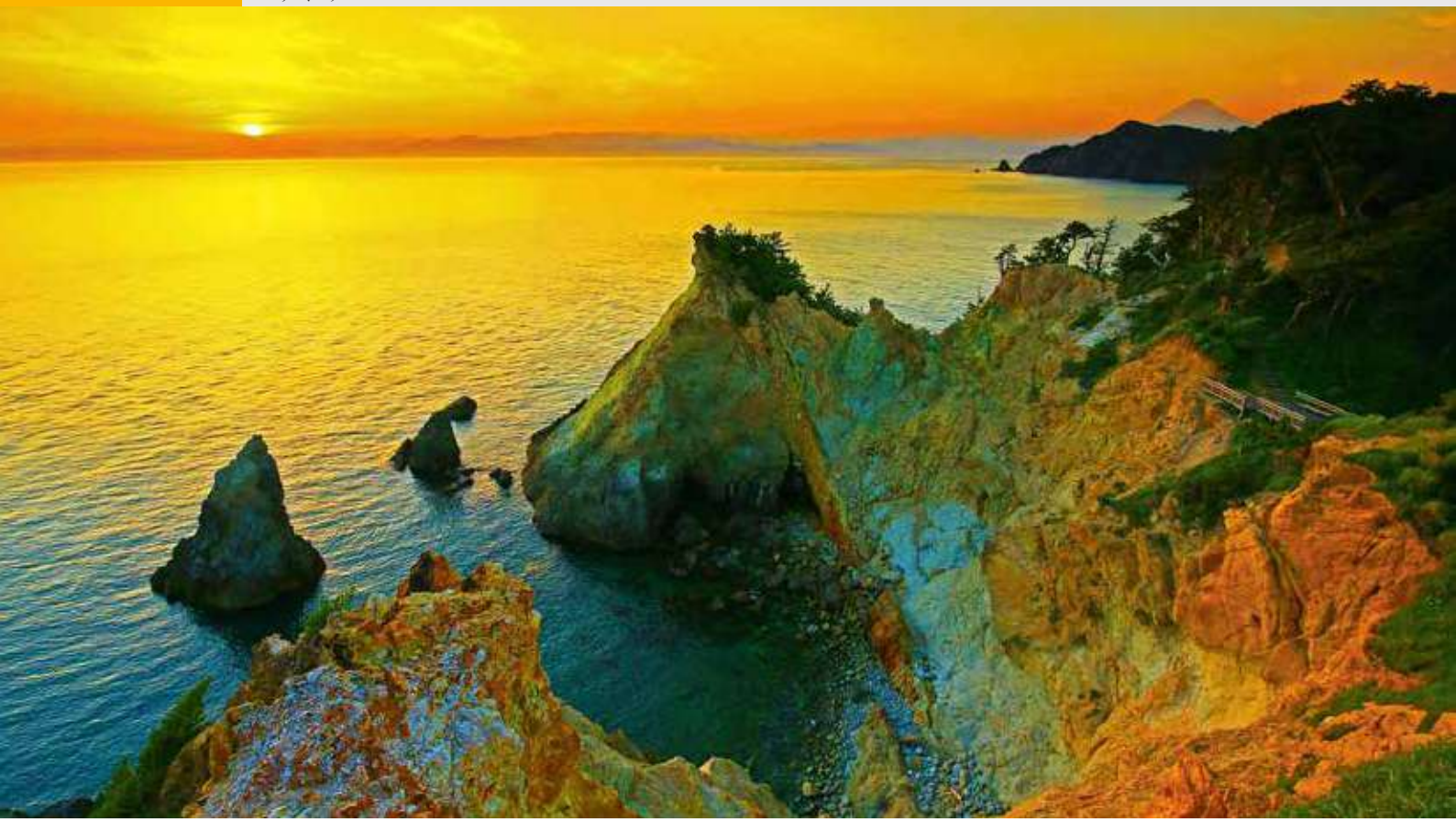
●花壇の管理を行う「中花の会」

●郷山公園の花壇

西伊豆町

宇久須

うぐす



●美しい夕陽が邑を染める（夕陽の町西伊豆町フォトコンテスト夕日部門入選_加藤泰平）

●宇久須美農里会プロジェクトメンバー

獣害を減らして邑を元気に

イノシシやシカの獣害被害が深刻だった宇久須地区。状況を打開しようと立ち上がったのが宇久須美農里会プロジェクトです。獣害対策だけでなく、景観保全などを軸に邑の再生に取り組んでいます。組織の活躍により獣害が減り、邑全体の雰囲気も明るくなりました。

農地と文化を守り次世代へ

子供たちの郷土愛を育み、地域の絆を深めるため、子どもたちが赤装束を着て踊る出崎神社の猿っこ踊りなどの伝統文化の保全にも力を入れています。一度は廃れてしまった宇久須神社の祭典も復活させました。地域みんなで協力し、農地と文化を守る活動は続いていきます。

●宇久須地区で栽培される「静岡水わさび」

●除草作業の様子

●ガラスをテーマにしたミュージアム「黄金崎クリスタルパーク」

熱海市

日本一のだいだいの里「多賀」

にほんいちのだいだいのさと「たが」

●海を見下ろす山の斜面に広がるダイダイ畑

●市内飲食店も協力した新メニュー開発

市をあげて加工品開発!

多賀はその名の通り、ダイダイの生産量が日本一。縁起物として主に使われてきましたが、近年需要が落ち込んできたため、加工品の開発・販売に力を入れています。市をあげて取り組み、マーマレードやポン酢など果汁から皮まで使用した加工品はお土産の定番となっています。

安心安全なダイダイを

ダイダイは、病気や害虫に強く栽培に最も手間がかからない柑橘と言われています。邑では、各農家が化学肥料や農薬の使用低減を実践するエコファーマーの認定を取得するなど、更なる安心・安全なダイダイの生産に努めています。

●ダイダイを使った新メニュー

●ダイダイ畑

●ダイダイを使った加工品

伊東市

十足

とうたり

●里山をめぐるウォーキングコース

●力を合わせて行う草刈り

地域一体となって水田を守る

十足の水田は水の管理が難しい上に、機械による作業がしにくいという難点があります。しかし、貴重な景観を失うまいと邑びとたちは「十足農地と水辺の会」を結成。地元JAのスタッフや地域を支える若手とともに、草刈りや水路の整備を行っています。

邑を彩る彼岸花

秋には水田のあぜ道に深紅の彼岸花が咲き誇ります。もともと数多く自生していた彼岸花を、邑びとが新たに植栽しさらに美しい景観に。大輪で色濃い彼岸花が育つように、草刈りの時期や刈る方法にまでこだわっているそうです。

●邑の皆さんと彼岸花

●鏡のように周囲の緑を写す水田

●新鮮な野菜を売る小川ファーム直売所

伊東市

富戸吉田

ふとよしだ

●美しい海岸沿いに建つ農業用水の源

●山並みを彩るみかん

みかん園が織り成す美しい景観

富戸吉田は約200haのみかん園が広がる樹園地地帯。海岸近くに湧き出る真水の湧水から大口径のポンプ場「三の原揚水機場」で農業用水を圧送し、みかんを育てています。伊東温泉の観光客を始めとする多くの来訪者がみかん狩りを楽しんでいます。

農業用水を支える地域の力

海岸近くの水源から山腹まで起伏に富んだ地形に設置されたパイプラインの管理は、山並みを彩るみかん園をはじめとする地域の農業を支える大切な仕事です。富戸吉田土地改良区の役員を中心に、農業者が計画的に草刈りなど管理作業を行っています。

●富戸の秋祭り

●大室山が噴火したことでできた城ヶ崎海岸

●四季折々に違った景色が楽しめる一碧湖

伊豆市

伊豆月ヶ瀬梅の里

いずつきがせうめのさと

●美しく咲く梅の花

●梅びとの郷

天空に浮かぶ梅の里

天城連山を望む丘の上に1,500本の梅林がある月ヶ瀬地区。梅の花が見ごろを迎える時期には「伊豆月ヶ瀬梅林梅まつり」が行われています。美しい景色を見られることに加え地域住民手作りの様々な企画も開催されており、世代を超えて多くの方々が訪れます。

梅資源を支える人々

「梅びとの郷」では地域の農産物や梅園で収穫した梅の加工品を販売しています。30年以上変わらない製法で作る梅シロップは、梅とグラニュー糖のみを使用した爽やかな味わいです。収穫1か月で1年分の梅シロップを2万本製造しており、女性の活躍は欠かせません。

●梅びとの郷で販売されている商品

●伊豆月ヶ瀬梅林梅祭り

●梅狩り体験の様子

伊豆市

桂流コシヒカリのふる里

けいりゅうこしひかりのふるさと

●昔ながらの美しい風景

●グリーンファーム桂谷のメンバーと、「修善寺紙を再現する会」の皆さん

桂谷地区は伊豆屈指の米どころ

渓流・桂川に沿って整然と広がる棚田で作られるお米は、「桂流コシヒカリ」としてブランド化されています。地産地消を重視するこの高級米は、修善寺温泉旅館協同組合に加盟している旅館へ販売しており、「幻の米」として宿泊客にふるまわれています。

清流が育む「修善寺和紙」

令和２年には伝統文化を次代へ繋げようと、活動休止していた「修善寺紙を再現する会」を若手後継者が再興。代々受け継ぐ豊かな農地と里山を守る邑の方々の営みが、持続可能な地域づくりにつながっています。

●ブランド米「桂流コシヒカリ」

●地元保育園の園児による田植え体験

●紙漉き体験の様子

伊豆市

いずのやね茅野

いずのやねかやの

●美しく広がる棚田

●多くの人が携わり完成した麦ストロー

自然環境豊かな邑

鉢窪山、浄蓮の滝、わさび田、棚田等の地域資源に恵まれたいずのやね茅野。大学生と共に行う鉢窪山の遊歩道整備、ジビエメニューの開発等積極的に活動を行っています。また、農業体験や若い世代の住民による地域のＰＲ活動によって、都市住民との交流も盛んです。

地域資源を有効活用

邑では、福祉事業所と連携し「麦ストロー」を生産・加工・販売しています。麦ストローの材料であるライ麦は、遊休農地を活用して栽培。麦ストローは、脱プラスチック対策にもつながる環境にやさしい商品です。

●ジビエメニュー

●学生と整備する遊歩道

●浄蓮の滝

伊豆市

日本一の水わさびの邑

にほんいちのみずわさびのむら

●畳石式のわさび田と富士山

●天城山を源流とする「萬城の滝」

天城山の清流が育むわさび田

わさび栽培の発展は、天城山からの冷涼な湧水が豊富なことと、明治時代この地で考案された「畳石式」という栽培方法によります。伝統技術は今も変わらず受け継がれ、「静岡水わさびの伝統栽培」は、日本農業遺産及び世界農業遺産にも認定されました。

わさび田を守ることは、豊かな天城山を守ること

畳石式のわさび田は、下流域を水害から守る自然ダム機能を持つほか、農薬を極力使用しない栽培を実践することで、絶滅危惧種を含む貴重で多様な動植物の自然環境を保全する役割も担っています。

●わさびと各生産者が独自に作る加工品

●わさびの収穫体験

●山あいでみる「スジグロシロチョウ」

伊豆の国市

韮山多田

にらやまただ

●ほ場整備された平坦な農地

●地域を潤す「韮山用水」

広大な農地で営まれる水稲

源頼朝や北条政子といった歴史上の重要人物との関わりも深い歴史と文化あふれる韮山の地で、環境にやさしい農業が行われています。かつては水に恵まれない地域でしたが、農業用水路が整備され、安定した稲作が営まれています。

邑の伝統の継承

400年以上も前から受け継がれている伝統行事「二杯盛り」は、茶碗２杯の茶飯を食べ、健康を祈願するものです。大盛の茶飯を残さず食べる伝統が、邑の活力を生み出しています。

●伝統行事「二杯盛り」

●甘さが自慢「いちご狩」

●減農薬や有機肥料を使った「エコファーマー米」

伊豆の国市

韮山金谷

にらやまかなや

●小山に囲まれた農地からの富士山

●韮山竹灯籠まつり

伊豆国の中枢を担った歴史深き里山

「世直し大明神」と慕われた名代官・江川太郎左衛門英龍（担庵）が韮山反射炉を築いたのは幕末ですが、この邑は、江戸幕府の世襲代官を務めた江川家とともに歴史を刻んでいます。近年、放置竹林の問題を抱えていますが、多様な参画を得て竹林整備を行っています。

里山の美化に努める邑

伐採竹林を活用した韮山竹灯籠まつりは、令和４年に６年ぶりに開催され、SDGｓの観点からLEDライトを使い江川邸を灯しました。竹林の適切な維持・管理、伐採竹と竹林の有効活用を持続的に進め、放置竹林解消に励んでいます。

●世界文化遺産「韮山反射炉」

●国の重要文化財「韮山江川邸」

●竹林整備の様子

浮橋

うきはし

●田畑と空が広がる邑

●流しそうめんのイベント

「幼少期の思い出づくり」を

平成24年に組織された「浮橋まちづくり実行委員会」。地域の活性化を目指し、有志がアイデアを持ち寄って様々な活動を行っています。ホタル観賞会やクワガタ・カブトムシ捕り体験等多様なイベントを開催し、子どもたちの浮橋に対する愛着形成を図っています。

地域内外との交流

小麦の栽培にも取り組んでいる浮橋。地産小麦100%の「浮橋そうめん」は絶品です。毎年6月に開催される流しそうめんイベントは地域住民のみならず都市部の人まで惹きつける一大イベント。様々な人との交流が生まれています。

●「浮橋そばの里祭り」の様子

●地場産品直売所「大仁まごころ市場」

●カブトムシ捕りをする子どもたち

函南町

丹那

たんな

●富士山の見える丹那盆地

●酪農王国オラッチェ

企業と農家が一致団結!

地域農業の発展、農業者の育成を目指して設立された酪農王国株式会社。地域の高齢者や離農者の雇用の受け皿になるだけでなく、観光スポットとしても人気の酪農王国オラッチェを経営し、邑の賑わいを創出しています。

邑の自慢を子どもたちへ

「自分の子や孫にも飲ませる牛乳を消費者の皆様にも」という思いのもと創設された”丹那牛乳”ブランド。酪農家と工場が近く良質な生乳を加工できることが大きな特徴で、県東部の学校給食にも提供されています。

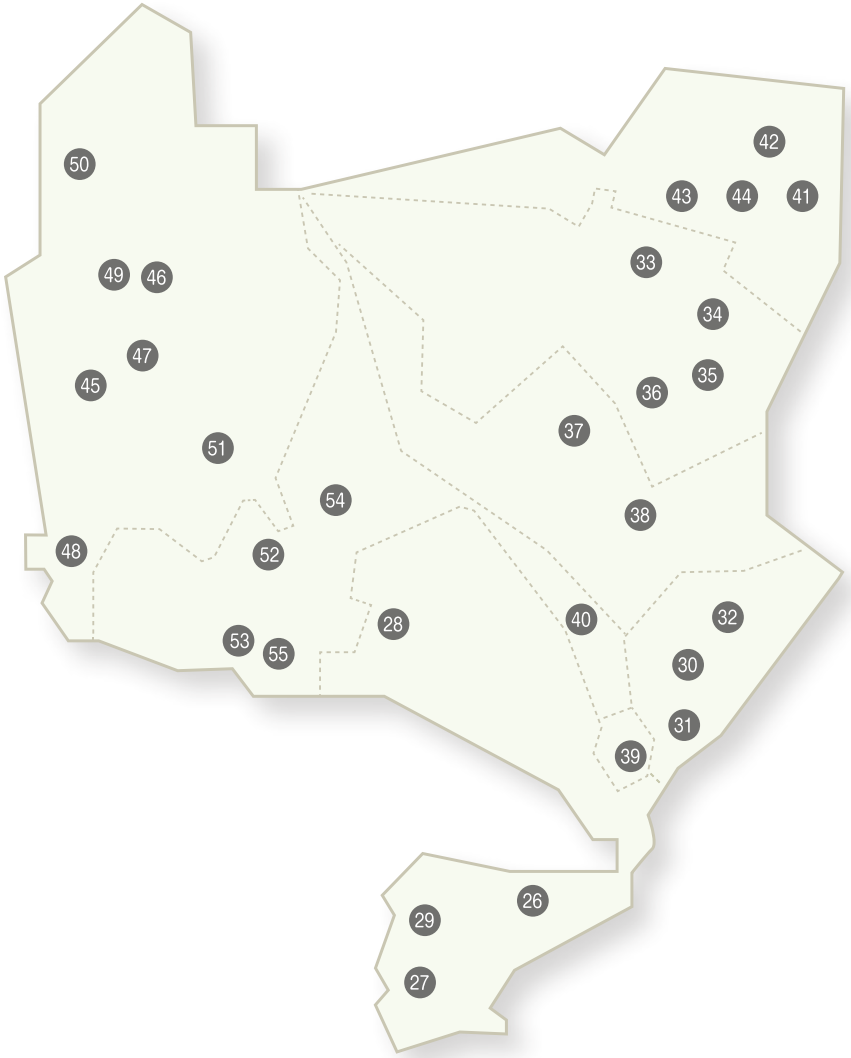
●地域全体で取り組む酪農

●丹那牛乳を使った加工品

●有機栽培に取り組む函南めぐり野菜

東部地域

東部地域30邑



㉖寿太郎みかんのふるさと 西浦 …… P32
㉗戸田 …… P33
㉘浮島 …… P34
㉙夢むら井田 …… P35
㉚三島箱根西麓地区 …… P36
㉛中郷地区 …… P37
㉜山田川自然の里 …… P38
㉝西澤水系 …… P39
㉞沼田ロマンチック街道 …… P40
㉟二子湧水の里 …… P41
㊱せせらぎ中清水 …… P42
㊲パノラマ遊花の里 …… P43
㊳深良地区 …… P44
㊴久米田 …… P45
㊵上長窪地区 …… P46
㊶所領 …… P47
㊷金太郎産湯の里湯船 …… P48
㊸上野美農里の会 …… P49
㊹吉久保日吉の里 …… P50
㊺柚野の里 …… P51
㊻白糸の里 …… P52
㊼南条の里 …… P53
㊽内房の里 …… P54
㊾天子ヶ岳の里 …… P55
㊿五感で癒される湧水の里いのかしら …… P56
(51)羽鮒の里 …… P57
(52)岩本山とかりがね堤を守る邑 …… P58
(53)富士山のふもとの郷を守る邑 …… P59
(54)大淵笹場 …… P60
(55)はるやま21 …… P61

沼津市

寿太郎みかんのふるさと 西浦

じゅたろうみかんのふるさと　にしうら

●みかん畑から望む駿河湾と富士山

●こどもローカルマガジン取材の様子

子どもたちが魅力を発信

邑の小中学生がプロの新聞記者やカメラマンから手法を学び、魅力ある地元のものや人を取材し情報誌を製作する「こどもローカルマガジン」プロジェクトを実施。体験作業を通じて地域のすばらしさを知り、故郷への愛着や誇りを育む活動を展開しています。

アニメとコラボで更なる活性化

「おいしさギュッ」がキャッチフレーズの小玉で味が濃い「寿太郎みかん」が地域の特産品です。県内外から引く手あまたの高級ブランドですが、人気アニメとのコラボで若年層へのPRにも成功し、更なる注目を集めています。

●寿太郎みかん

●寿太郎みかんを活用した加工品

●ウォーキングやかんきつ類の販売イベント

沼津市

戸田

へだ

●駿河湾と山々に囲まれた戸田

●小学生を対象にした田植え体験

農林業を次世代に

漁師町として有名な戸田。実は、邑の８割が森林という深い山々に抱かれています。近年は農林業の後継者不足が大きな課題。小中学生を対象に邑に親しみを持てるような体験学習を実施しており、食育と共に地域への愛着を持つ場となっています。

原点回帰と特産品開発

日本古来の柑橘・タチバナは戸田に自生する希少種です。新たな特産品として６次産業化へ挑戦。ジャムやリキュールなどの食品以外にもシャンプーや精油へ加工を行っています。英国の世界大会でマーマレードが最高金賞を受賞するなど、国内外から注目が集まっています。

●つなぐ棚田遺産にも登録された「北山の棚田」

●日本古来の柑橘・タチバナ

●タチバナを活用した特産品

浮島

うきしま

●多彩なイベントも開催される「浮島ひまわりらんど」

●ヒマワリの苗植え体験を行った地域の小学生

地域の絆を未来へつなぐ

高齢化や農家の減少により休耕田や荒廃農地が増加し景観の悪化に悩まされていた浮島地区。地域の課題を解決するべく、平成20年に休耕田約2,000㎡に土を入れヒマワリ栽培を始めました。今では県内外から多くの人が訪れる観光名所となっています。

ヒマワリ栽培で食育授業

「地域の景観や農業への関心を呼び起こしたい」との思いから、浮島地区景観保存協議会が中心となり様々な取り組みを実施。苗植え、収穫した種の搾油、ヒマワリ油を使ったさつま揚げの試食など、地域住民や子どもたちを巻き込んだ活動が行われています。

●北条早雲の旗揚げの城「興国寺城」

●ヒマワリを背に行われたミニコンサート

●地域住民が集まる「コミュニティ祭り」

夢むら井田

ゆめむらいだ

●海、池、山が一望できる「煌めきの丘」から見下ろす邑

●「井田海花山公園」の舞台となる松江古墳

現代の花咲爺を目指して

どこか懐かしい日本の原風景を残す、夢むら井田。過疎化・高齢化が進む中、誇り高き歴史と文化を後世に繋げようと「井田花海山公園」造成プロジェクトが立ち上がりました。邑のシンボルとなる松江古墳に花木の植栽をし、地域一体を春色に染める取り組みです。

海の美しさも抜群

井田の海の青さは「井田ブルー」と称されるほどの美しさ。透明度の高さは環境省の水質調査で国内最上級の評価を獲得し、宮古島や石垣島と並び1位に輝きました。豊かな生態系も存在し、知る人ぞ知るダイビングスポットとなっています。

●「井田花海山公園」完成予想図

●国内屈指の水質を誇る「井田ブルー」

●海から生まれた淡水池「明神池」

三島市

三島箱根西麓地区

みしまはこねせいろくちく

●富士山を仰ぐ美しい景観

●多品目･高品質の箱根西麓三島野菜

地域の宝は日本の宝に

この邑では「箱根西麓三島野菜」という高品質な野菜が育ちます。機械化できない傾斜地で育つ野菜は人の手で丁寧に栽培されるため、野菜本来の旨味が詰まっています。生産者と地元農協、行政が連携しブランド化を推進することで、県内を代表するブランド野菜の一つになりました。

縁起物を宝分け

平成24年から、三嶋大社の新嘗祭（にいなめさい）にて「箱根西麓三島野菜ブランド推進協議会」の若手有志が作物の豊穣を祈願し野菜を奉納。祭りの翌日にそれを「宝分け」の縁起物として地域に配ることで、生産者のモチベーションや野菜の付加価値を高めています。

●三島馬鈴薯を使った三島コロッケ

●野菜を買う際は直売所へ

●傾斜地で行われる三島大根の日干し作業

中郷地区

なかざとちく

●三島市南部に位置する中郷地区

●ワイルドフラワー

地産地消を実践し 田園と街が共存する理想郷

時代とともに工場等が増えてきましたが、その合間に、今なお美しい田畑が残り、源兵衛川を用水の源とする水稲やイチゴ、トマト等の栽培が行われています。多くの生産者が直売所で、観光客や地域の人々に採れたての農産物を販売していることも魅力的です。

地元愛を育む活動

稲刈り後の水田には、地域の児童クラブや小中学校等と連携し、レンゲやワイルドフラワーを植栽しています。4月には「お花畑演奏会」を行い、交流の輪を広げています。自然と触れ合う機会として、農作物の栽培等の自然体験学習も開催しています。

●直売所「伊豆・村の駅」

●世界かんがい施設遺産・世界水遺産「源兵衛川」

●地元小学生によるサツマイモの栽培

三島市

山田川自然の里

やまだがわしぜんのさと

●緑溢れる邑

●里の中に広がる1.5kmの散策路

山田川の両側に広がる農村風景

邑を守るのは、山田川グリーンツーリズム研究会の皆さん。景観維持や環境保全のため、約40名のボランティアが集まり、年間を通じて里づくりを行っています。透明できれいな水が流れる山田川には水遊びのできるせせらぎも点在し、人々の憩いの場となっています。

子どもたちの笑顔が溢れる邑

食育にも力を入れている山田川自然の里。年齢に合わせた自然体験が人気で、近年では邑を訪れる親子連れが増加しています。収穫したお米でおむすびを作ったり堀ったサツマイモを焼き芋にしたりと、季節ごとの農業体験を行うことができます。

●体験活動を楽しむ子どもたち

●邑を守るボランティアの皆さん

●竹林維持のための間引き

西澤水系

にしざわすいけい

●芝桜と逆さ富士

●湧水を利用して作られる水かけ菜

田園から望む富士山は雄大

富士山の麓に位置する西澤水系。なだらかな丘陵に整備されたひな壇状の田園が美しく広がっています。ほ場と用水路が整然と整備されているほか、農道の管理維持も定期的に行われています。また、更なる景観の向上に向け、花を植える取組も行われています。

湧水を利用した農業

富士山の伏流水で育てられた「ごてんばこしひかり」は数々の受賞歴を誇るブランド米。また、1月～3月にかけては湧水を利用した「水かけ菜」が栽培されます。収穫後は景観作物として鮮やかな黄色い花を咲かせ、富士山の景観に彩りを与えます。

●数々の受賞歴を誇るごてんばこしひかり

●ひな壇状の美しいほ場

●あぜ道ウォーキングの様子

御殿場市

沼田ロマンチック街道

ぬまたろまんちっくかいどう

●富士山に目を見張る田園風景

●ホタルの幼虫が住む用水路

小さいから強い直売所

地元の間伐材を活用して作られた農産物直売所は、地場産の米、野菜、加工品販売を行っています。地域住民はもちろん、県外から出荷する人もいるほど大人気となっています。地域の人々が得意分野を発揮する交流拠点は、今後も邑の発展の舞台となるでしょう。

沼田育ちのホタルが舞う

10年以上前から地域の環境保全としてホタルの保全活動を行ってきました。最初こそ幼虫の放流を行っていましたが、今では放流を行わず沼田育ちのホタルを見ることができるようになりました。ホタル観賞会も開催され、地域の子どもたちがホタルとの触れ合いを楽しんでいます。

●菖蒲とホタル

●農産物や特産品が並ぶ直売所

●色とりどりの花が咲く「沼田ロマンチック街道」

御殿場市

二子湧水の里

ふたごゆうすいのさと

●水かけ菜と富士山

●二子湧水保存の会のメンバー

全区民でつなぐ地域の宝

邑づくりを行うのは、二子湧水保存会のメンバー。全区民が会員であり、一丸となって邑の河川美化作業などに取り組んでいます。小学生と連携した農業体験も行い、先人が築いた邑の宝を次世代へ伝える活動も実施しています。

魅力発信で移住定住促進

邑の魅力を伝えることで移住・定住の促進につなげようと平成30年に「ごてんば農家民宿村」をオープン。地区内の６軒の農家民宿が、豊富な湧き水と季節ごとに織りなす美しい景観で訪れる人々をもてなします。魅力を未来につなぐ活動はこれからも進んでいきます。

●収穫体験をする富士岡小学校の生徒

●邑で収穫したこしひかり

●農家民宿「松の葉」

御殿場市

せせらぎ中清水

せ せ ら ぎ な か し み ず

●富士山を望む水田

●中清水水神公園の湧水

豊富な湧水に支えられる農産物

湧水が豊富な中清水では、中清水水神公園の池を水源に、地域の特産品であるごてんばこしひかりや、御殿場名産の水かけ菜を栽培しています。また、中清水報徳婦人倶楽部の女性たちが湧水を使った漬物作りにも取り組んでおり、「富士山おばちゃん'sキムチ」は人気が高まっています。

邑の絆を深める祭典

中清水には、自然の恵みに感謝して建てられた神社など、歴史ある建物や碑がいくつもあり、多くの祭典を地元の人たちの手で執り行っています。歴史ある祭典を守り続けることが邑の絆を深め、地域の一体感を生んでいます。

●湧水を使った漬物作り

●富士山のおばちゃん'sキムチ

●悪疫退散を願う吉田神社の祭典

裾野市

パノラマ遊花の里

ぱのらまゆうかのさと

●数々の賞を受賞している美しい花畑

●パノラマ遊花の里　中心メンバーの皆さん

富士山と季節の花々でおもてなし

富士山へと一直線に続くパノラマロード。この絶景の仕掛人は「パノラマロードを花でいっぱいにする会」です。地元農家をはじめ、観光協会や婦人会など、多くの市民や企業が一体となって遊休農地に景観作物を植栽する活動を行っています。

邑全体で行う植栽活動

令和４年６月には子どもからお年寄りまで1,800人を超える地域住民が参加しコスモスの種まきを実施。子どもたちにとって土や虫に触れるいい機会になっていたり、お年寄りの生き甲斐になっていたりと邑全体の活性化に繋がっています。

●コスモスの種まきの様子

●毎年9月に行われるコスモス祭り

●美人の湯「ヘルシーパーク裾野」

深良地区

ふからちく

●雄大な富士山を見ることのできる邑

●深良用水まつりの様子

「いのちの用水」を次世代につなぐ

小学生を対象にした稲作体験、幼稚園児を対象とした芋ほり体験など、子どものころから地域の農業や深良用水に親しむ活動を行っています。特に普段は許可がなければ入れない素掘りトンネル内部を見学できるのは、邑の子どもたちの特権です。

350年前からつながる稲作

江戸時代の先人が芦ノ湖から導水すべく箱根山に約1.3kmのトンネルを手堀りし、用水を導いた「深良用水」。渇水で苦しんでいた邑を救い、水田整備のきっかけとなっただけでなく、現在も農業や発電を始め、地域の生活や経済基盤を支える重要な施設となっています。

●早乙女たちによる田植え（第5回農村の魅力フォトコンテスト入選_佐藤美栄子）

●地元の小学生と連携した稲刈りの様子

●世界かんがい施設遺産深良用水穴口の様子

久米田

くまいでん

●ふれあい農場「リュミエルYAMAMOTO」

●農園で育つトマト

町のふれあい農園と都市近郊型農業の新たな可能性

清水町の町民農園として、久米田のふれあい農園は地域のシンボル的な存在になっています。「背広でできる開かれた農園」をテーマにした「リュミエルＹＡＭＡＭＯＴＯ」は、サラリーマンでも仕事帰りに手ぶらで立ち寄り、気軽に農作業ができると大人気です。

貴重な古代種「緑米」

縄文時代に中国から伝わったとされる「緑米」。全国でも生産例が少ない貴重なお米です。「緑米」はもち米ですが、普通のもち米より粘りと甘みが強いのが特徴です。町の特産品としてお酒やあられ菓子などの加工品も販売されています。

●古代種「緑米」

●農園で採れた作物の販売

●柿田川湧水を利用

上長窪地区

かみながくぼちく

●中山間地に位置する邑

●幼稚園児の稲作体験

愛鷹山のふもとで進む邑づくりと人づくり

上長窪地区は、愛鷹山麓の南北に広がる長泉町の北端にある中山間地です。この邑では、古くから農・畜産業が盛んで、四ツ溝柿やあしたか牛といったブランド食材も生み出しています。また、幼稚園児に稲作とそば栽培を体験してもらう活動も行われています。

邑人で賑わう長泉産直市

JA南駿の東部営農センター内にある直売所。長泉町特産の白ねぎやメロン、平成23年度に「しずおか食セレクション」に認定された四ツ溝柿などのほかに新鮮な野菜も豊富で、開店前には毎日のように行列ができるほどの人気となっています。

●高品質なブランド牛「あしたか牛」

●まろやかや甘みが特徴の「四ツ溝柿」

●JAの東部営農センター内にある直売所

所領

しょりょう

●鮎沢川の清流と御殿場線が走る素朴な田園風景

●水かけ菜の栽培

おいしいコシヒカリを育む米どころ

富士山からの豊富な湧水と昼夜の寒暖差がある中山間地は、おいしいコシヒカリを育む米どころです。営農は、地域住民が立ち上げた農業法人が行い、昔からの田園の景色を守っています。冬には、水田で地域特産の水かけ菜の栽培も行われています。

都内小学生との農業交流

首都圏からのアクセスの良さを生かし、東京都の小学校の農業体験授業の受入れを行っています。この交流は、都会の子どもたちに農業や自然に触れる貴重な場を提供するだけでなく、邑びとたちにとっても大きな励みになっています。

●足柄ふれあい公園

●お米のできるまでを学ぶ学生たち

●小山所領　稲収穫

小山町

金太郎産湯の里湯船

きんたろううぶゆのさとゆふね

●鮮やかな棚田風景

●美しく舞うホタル

水田を彩る何千ものあじさい

金太郎ゆかりの場所がいくつもあるこの邑では、梅雨の季節、棚田状に広がる水田のあぜや斜面にたくさんのあじさいが咲き誇ります。平成12年に初めてあじさいを植え、邑人みんなで手をかけて大切に育ててきました。「湯船あじさい祭り」には毎年多くの人々が訪れます。

淡く美しい光を放つホタル

ホタルの自生地の保全と拡大を目指して、ホタルの里づくりを行っています。平成27年には「静岡県ほたるサミット小山町大会」の会場にもなっており、川の上流から次々と姿を現す神秘的な光には目を奪われます。

●ライトアップも行われるあじさい祭り

●湯舟あじさい祭りで行われた「ランニングバイク競争」

●農作業の省力化を図るためドローンを活用

小山町

上野美農里の会

うえのみのりのかい

●美しく並ぶ水田と金太郎トマトのハウス

●荒廃農地に畝をたててホタルの保全活動

富士の麓に広がる水田

年間を通して水温13度の豊富な丹沢山系伏流水の恵みを受け、古くから稲作が盛んな地域です。水田は、お米を収穫できるという意味だけでなく、環境に欠かせない小さな生き物の住みかにもなり、休耕田を利用しホタルの生息環境を守っています。

農家だけでなく地域が一丸となって活動

田んぼづくりに必要な農道や水路の整備・保全を行うとともに、電柵を設置し、近年多発している鳥獣害の被害から地域の田畑を守っています。これらの活動を通して、豊かな邑の里山を後世に繋ぎ残すための活動をしています。

●小山町特産フルーツトマトの「金太郎トマト」

●鹿の食害を防ぐ電柵のある田

●里山を守る邑の皆さん

小山町

吉久保日吉の里

よしくぼひよしのさと

●富士山からの豊富な湧水をたたえた階段状の水田

●邑を盛り上げる「日吉会」と「吉久保地域自然保全会」の皆さん

地域の自然を次世代へ

「吉久保日吉の里」には初夏の夜を彩るホタル、大輪の花をつけるハス、黄金色の頭を垂れる稲穂など、季節ごとに雄大な富士山とのコラボレーションを楽しむことができる自然で溢れています。邑びとたちの継続的な活動により、この宝を次世代へ引き継いでいきます。

地域のボランティア精神を全国へ

平成22年に水害に襲われた邑を支援してくれたのは福島県新地町でした。恩返しがしたいと始まった「あおぞら市」では、休耕地を借り受けて栽培した野菜や加工品を販売しています。あおぞら市の売上金と収穫した農産物を携えて、被災地支援に取り組んでいます。

●人々の目を楽しませるハス

●邑びとで賑わうあおぞら市

●休耕地での野菜栽培

富士宮市

柚野の里

ゆ の の さ と

●柚野逆さ富士

●邑びと達と楽しく稲作

柚野の棚田群と富士山

地域全体が棚田で構成される美しい景観として、柚野の棚田群は静岡県棚田等十選に選ばれています。棚田や四季折々に咲き誇る花々は、邑びとたちの活動によって守られており、雄大な富士山と一緒に多彩な表情を愛でることができます。

里山でつながる「寺子屋」プロジェクト

子ども会と地域の企業等が連携し、邑の子どもたちが四季を通じて里山ならではの環境教育や野外活動を体験でき、みんなが集まれる場として「寺子屋」フィールドづくりが行われています。寺子屋では、子どもたちに里山の大切さや、ものづくりの楽しさを伝えていきます。

●荏胡麻が広がる秋の景観（第5回農村の魅力フォトコンテスト準特選_飯田 忠雄）

●「寺子屋」フィールドづくり

●寺子屋開校式

富士宮市

白糸の里

しらいとのさと

●「白糸の里」から望む富士山

●富士山を横目にウォーキング

自然・文化・歴史遺産に満ちた歩きたくなる癒しの里

富士山からの伏流水に恵まれた水田が広がる白糸地区。ほ場整備により生まれ変わった雛壇状の水田を「平成棚田」と名付け、特産の「白糸コシヒカリ」等を生産しています。農の営みと富士の雄姿のコラボレーションは訪れる人々を楽しませてくれます。

「手作りの味」が大好評

地域の婦人組織が経営するそば処「富士山白糸庵」は、富士山を見ながら自慢の手打ち蕎麦が食べられるとあって、常連客はもちろん、観光客にも人気となっています。田植えの頃は水田に映る逆さ富士を見ることができます。

●黄金に染まる棚田

●ノルディックウォーキングコースとしても好評を得ている

●そば処「富士山白糸庵」

南条の里

なんじょうのさと

●人々の目を引く菜の花

●西洋菊から臨む富士山

カラフルな菊で描く 大きな富士山が見もの!

「南条の里」は鎌倉時代後期の武将でこの地の地頭として地域づくりに尽力した「南条時光公」に由来します。地域では菜の花やコスモス、ひまわり、西洋菊、蕎麦などの植栽がなされ、富士山を背景とした幾つもの絶景ポイントがつくられています。

"登山時間10分"南条菊富士

カラフルな西洋菊で富士山を形どった「南条菊富士」が毎年10月に見頃を迎えます。赤色で赤富士、白色で雪景色の富士山を描き、本物の富士山を背景に勾配0度、登山時間10分のミニ登山を楽しむことができる人気のスポットとなっています。

●登山時間10分　南条菊富士

●富士山絶景ポイント

●南条の里蕎麦まつり

富士宮市

内房の里

うつぶさのさと

●1株に何千個も花を咲かせるざる菊

●小学生も参加したざる菊の移植

富士山に映えるざる菊

内房の里では、景観形成活動として遊休農地を活用したざる菊や菜の花の植栽をし、春と秋には地域をあげて祭りを開催しています。令和４年には内房小学校の子どもたちも植栽に参加し約1,600株を植え付け、邑を彩りました。

地元に愛される手作り味噌

「内房里づくりの会」が中心となり、住民と一緒に自家製味噌作りを行っています。遊休農地で作った米のくず米を有効活用し作られた味噌は、土曜市や「内房たけのこ桜祭り」にて販売されています。完売必至の人気商品になっています。

●地元農産物などを販売する土曜市

●地域で作る自家製味噌

●4月に開催される内房たけのこ桜まつり

富士宮市

天子ヶ岳の里

てんしがたけのさと

●区民で植え付けた彼岸花

●日本大学生物資源科学部と一社一村しずおか運動

農村環境の保全活動を通じて育む交流

平成23年から日本大学生物資源科学部の学生と「一社一村しずおか運動」に取り組んでいます。また、同時期から区民全員で、田んぼの土手に彼岸花の植え付けを行っており、昔の日本の原風景のような美しい田園の景観を守っています。

遊休農地を学生の活動拠点に

学生と遊休農地にサツマイモの定植、収穫を行い、そのサツマイモは学生の提案により、地元企業の富士錦酒造株式会社によって焼酎「天子の雫」に醸造され、地域の農産物に付加価値が生まれました。

●学生と地元酒造会社で商品化「天子の雫」

●ほ場整備がされた効率の良い水田

●農地の保全活動

富士宮市

五感で癒される湧水の里いのかしら

ごかんでいやされるゆうすいのさといのかしら

●水田に映るダブルダイヤモンド富士

●クルーズ船の乗客を呼び込んで開催されたインバウンドツアー

世界の人々が訪れる癒しの里

豊富な地域資源を活用し、インバウンドを含む農泊や都市農村交流に積極的に取り組んでいます。清水港に寄港する豪華クルーズ船の乗客を呼び込み、養鱒場やわさび田の見学、地場料理の試食などの体験ツアーを実施。地域住民と外国人観光客の交流も進んでいます。

在来種を首都圏に

金時落花生やクレソン、ニジマスなど昔から地域に愛されてきた食材の新たな活用方法を首都有名レストラン「フローラ・ディ・マーレ」と連携しながら模索中です。総料理長によるフレンチ実演会なども開催されており、邑の挑戦はこれからも続いていきます。

●フローラ・ディ・マーレ総料理長による実演会

●金時落花生の新商品「猪之頭ピクルス」

●スローガン「五感deヒーリングいのかしら」ロゴマーク

富士宮市

羽鮒の里

はぶなのさと

●おおらかな里山の景色

●米作りを体験する小学生

米作りに励みながら邑を守る

江戸時代から続いているといわれる羽鮒の里の千枚田。高齢化が進む中、美しい棚田を守りたいとの思いから始まったほ場整備によって田んぼに機械を入れられるようになり、人力だけが頼りだった米作りは大きく変わりました。

黄金色の稲、美しい花

稲刈り後の棚田を彩るのは、邑の人々が植えた彼岸花やコスモス、蕎麦の花。また、芝富小学校の生徒は邑の田んぼで米作りを体験しており、地域の繋がりが各所で感じられます。世代を超えた温かな交流が、ここにはあります。

●邑の活動を支える皆さん

●地域が一丸となって整備する展望台

●地元JAや郵便局で直売を行う「野菜クラブ」

富士市

岩本山とかりがね堤を守る邑

いわもとやまとかりがねづつみをまもるむら

●岩本山から臨む富士山

●地域住民によるひまわりの植栽

富士山の撮影スポット「岩本山」

岩本山周辺は雄大な富士山をバックに、山腹では茶畑やみかん畑が広がっています。頂上の岩本山公園では梅や桜をはじめ、四季折々の美しい花々が咲き誇り、人気の撮影スポットとなっています。地域住民が植栽をしたひまわりやコスモスも、邑を美しく彩っています。

邑を守ってきた「かりがね堤」

富士川の度重なる氾濫から水田を守るため、江戸時代に50年以上の歳月を費やして全長2.7kmにおよぶ堤防が築かれました。水流を弱めるために雁が連なって飛ぶように折れ曲がっていることから、この堤防は「かりがね堤」と呼ばれています。

●四季折々の富士山が見られる

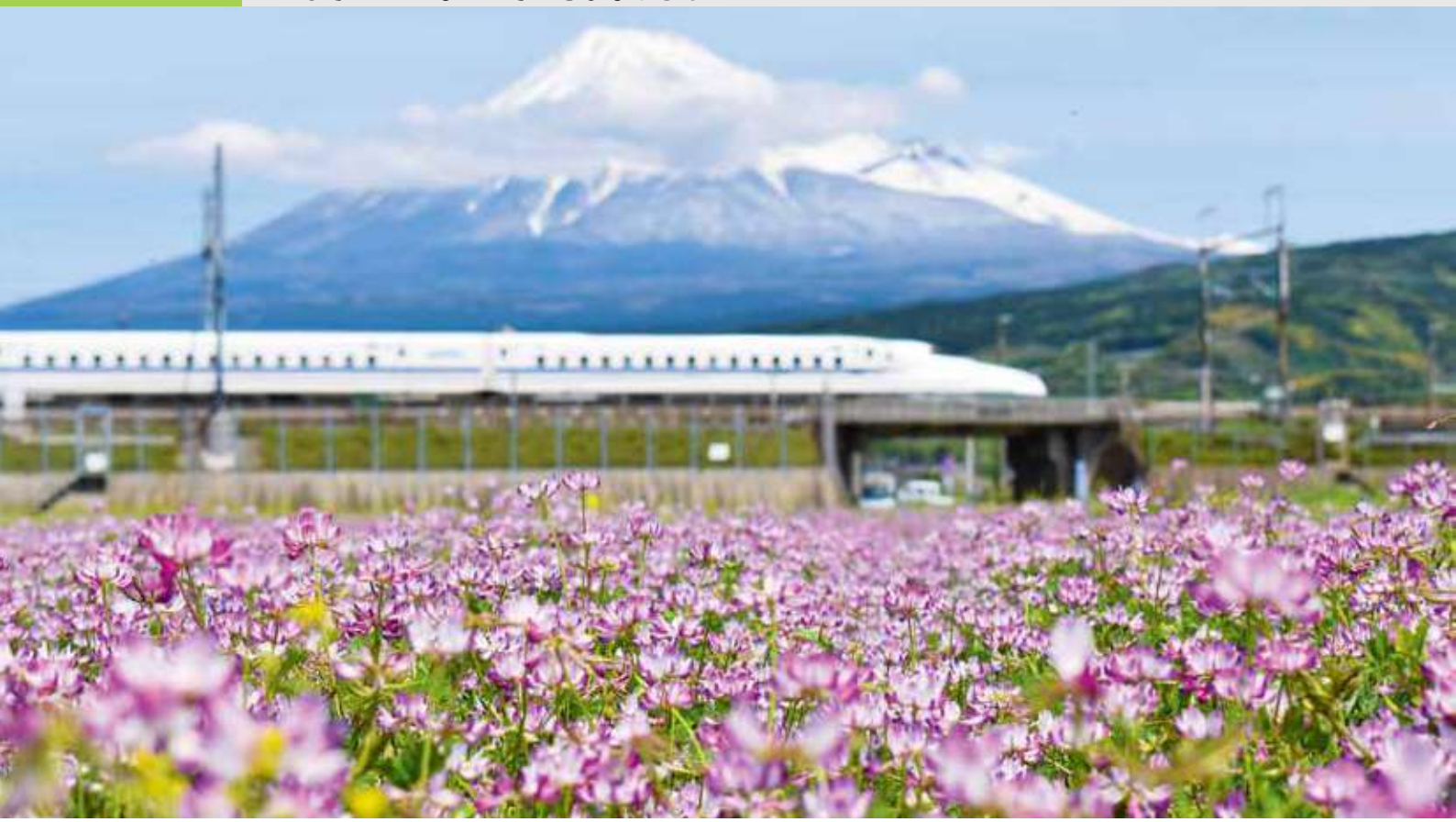
●かりがね堤越しの富士山

●岩本山産直市

富士市

富士山のふもとの郷を守る邑

ふじさんのふもとのさとをまもるむら



●富士山と新幹線を背に咲き誇るれんげ

●子どもたちのれんげの種まき

懐かしくも新しい景色

雄大な富士山を東海道新幹線越しに見ることができる富士市吉永・須津地区では、かつてのれんげ畑を復活させる活動が行われています。年々活動が拡大する中で、れんげを肥料に育った「れんげ米」のブランド化にも取り組んでいます。

富士の麓に広がる貴重な動植物の宝庫

国道1号バイパスからアクセスしやすい浮島ヶ原自然公園には、環境省のレッドリストや静岡県版レッドデータブックに載る貴重な動植物が生息しています。土日・祝日に行われるガイドによる公園案内は、訪れる人々に好評です。

●栄養豊富な田んぼで育つ米

●邑を守る昭和放水路

●浮島ヶ原自然公園

富士市

大淵笹場

おおぶちささば

●県内随一の絶景「富士山と茶畑」

●小中学生を対象とした茶摘み

小中学校と連携した地域学習

小中学校と連携した地域活動として、地域の歴史や文化、景観保全活動に関する講話を行っています。また、自分たちで摘んだ茶葉を手で揉み、作ったお茶を飲んでもらう体験を行うことで、地域の特産である「茶」の魅力を肌で感じ、地域への愛着や理解を深めてもらっています。

「富士山と茶畑」を未来へつなぐ

緑茶・紅茶のセットをJR東海の通販サイトで販売するほか、美しい景観をデザイン化したお茶缶「ささば缶」を開発し、直売所にて販売しています。売り上げの一部を保全活動に活用することで、県内随一の「富士山と茶畑」の景観を未来につなげていきます。

●景観をデザイン化したお茶缶「ささば缶」

●新たな観光スポット「おもてなしの茶の間」

●毎年5月に開催される「おおぶちお茶まつり」

はるやま21

●黄金色に輝く稲穂

●水稲部会と東小学校5年生

絵のように美しい田園風景

富士市浮島地区はかつて「浮島沼」と呼ばれる低湿地帯で、農民は冷たい水に胸まで埋もれながら泳ぐように田植えをする、過酷な農作業を強いられていました。その後ほ場整備事業等により広大な優良農地として生まれ変わり、今では見渡す限り緑の田園風景が続きます。

農業を次世代につなぐために

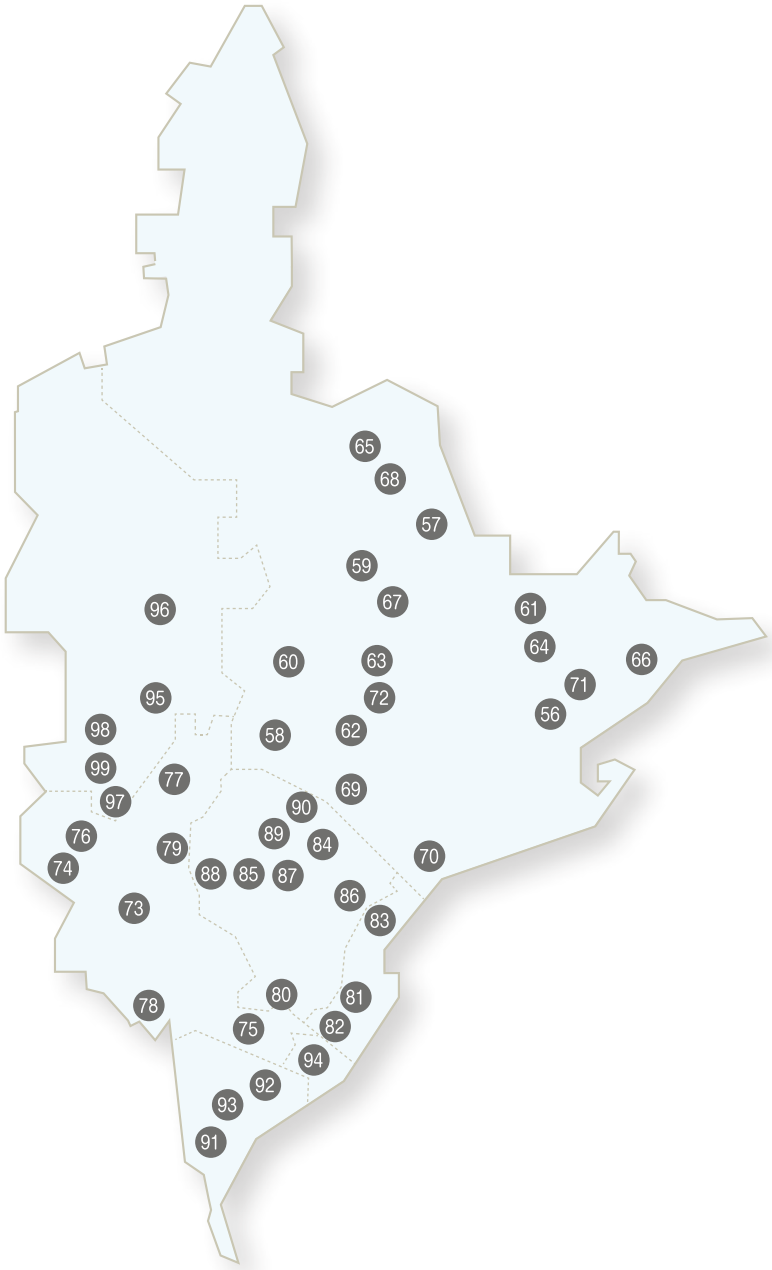
農業者の高齢化等が続く中、次世代を担う子どもたちに農業の大切さを伝えようと、30年以上前から続いているのが水稲部会の指導による富士市立東小学校の生徒たちの農業体験です。お米作り体験や茶摘み体験等、地域が一丸となって様々な取り組みを行っています。

●JA直売所「野菜工房うきうき畑」

●地域で行われる田植え体験の様子

●浮島沼での田植え風景（写真提供:富士市立博物館）

中部地域



中部地域44邑

56 原・新丹谷 …… P63
57 有東木 …… P64
58 清沢 …… P65
59 大沢地区 …… P66
60 奥藁科・大川 …… P67
61 清水区西里 …… P68
62 水見色 …… P69
63 奥長島 …… P70
64 布沢 …… P71
65 大代 …… P72
66 浜石岳と八千代の桜 …… P73
67 玉川 …… P74
68 梅ヶ島 …… P75
69 小瀬戸 …… P76
70 小坂 …… P77
71 茂畑 …… P78
72 足久保 …… P79
73 神座鵜網 …… P80
74 越地 …… P81
75 湯日 …… P82
76 抜里 …… P83
77 ささま …… P84
78 間の宿 菊川 …… P85
79 いくみ …… P86
80 東町 …… P87
81 中の島 …… P88
82 西島 …… P89
83 方ノ上 …… P90
84 殿 …… P91
85 本郷 …… P92
86 岡部本郷 …… P93
87 葉梨山水会 …… P94
88 滝沢・滝の谷 …… P95
89 市之瀬 …… P96
90 玉取 …… P97
91 菅山原 …… P98
92 坂部 …… P99
93 蛭ケ谷 …… P100
94 吉田たんぼ …… P101
95 徳山 …… P102
96 池の谷・閑蔵 …… P103
97 地名 …… P104
98 けっこい瀬平 …… P105
99 縁結びの村くのわき …… P106

静岡市

原・新丹谷

はら・あらたにや

●富士山に抱かれる原･新丹谷

●みかんの樹オーナー制度

農を主体に元気な邑に!

原・新丹谷は大規模な基盤整備を実施し、急傾斜地の農地が平坦で生産性の高い優良農地となったことで、若い後継者の増加のほか、新たな観光資源の可能性ももたらされました。荒廃農地の増加や担い手の減少が危惧される中、農を主体に元気な邑づくりに取り組みます。

基盤整備を契機に外部交流を展開

新東名高速道路からのアクセスの良さを利点に県内外からの来訪者を増やしています。中でもみかんの樹オーナー制度は、品種を選べることや自分で収穫することができるため人気を博しています。基盤整備を契機に、地域内にとどまらない交流を展開しています。

●基盤整備により優良農地となった樹園地

●邑づくりに取り組む皆さん

●地区内の沿道には人々の目を楽しませる景観作物も植栽

静岡市

有東木

うとうぎ

●茶畑に囲まれた集落

●山葵栽培発祥の地「有東木」

世界農業遺産「静岡水わさびの伝統栽培」

わさびの栽培は約400年前、有東木で始まりました。駿府城で晩年を過ごしていた徳川家康公が献上されたわさびを大変気に入り、有東木から門外不出にしたという説もあります。伝統的な農法を継承した栽培は、平成30年に国連食糧農業機関から世界農業遺産に認定されました。

「見て味わう」わさび栽培発祥地

地元のお母さんたちが切り盛りする地場産品販売所「うつろぎ」では、手打ちそばとともに、わさびの葉の天ぷらも味わえます。わさび漬け、わさびのり等の加工品に加え、お茶やほう葉餅等も販売しています。わさび漬け体験やそば打ち体験も人気です。

●地元のお母さんたちが運営

●地場産品販売所「うつろぎ」

●収穫したばかりの鮮やかなわさび

静岡市

清沢

きよさわ

●段々の石垣が見事な原風景

●植栽されたレモン

きよさわレモンの郷づくり

地区を支える茶産業に続く新たな地域産業として「きよさわレモンの郷づくり」を平成23年度に開始。約1,800本のレモンの木が各家庭に植栽されました。収穫されたレモンは「清沢式ぶっかけレモン」など様々な商品へ加工され、清沢のファンづくりにつながっています。

食・農業体験を通じた都市交流

きよさわ里の駅では、地元の採れたて野菜や地元食材を使用した食事の提供、加工品の販売を行っています。月1～3回程度農業体験などのイベントも開催し、地区内外の人々と交流を図り、地域の活性化につなげています。

●清沢式ぶっかけレモン

●NPO法人フロンティア清沢

●オクシズの駅きよさわ里の駅

静岡市

大沢地区

おおさわちく

●山と茶園に囲まれた小さな集落「大沢地区」

●おおさわ縁側カフェ

世代を超えた交流、縁側カフェで繋がる伝統と人

静岡市街地から車で約1時間、霧深い山と茶園に囲まれた戸数23戸の小さな集落で、香り高く味の引き締まったお茶を生み出す名産地。ほとんどの世帯で美味しいお茶を作っており、一般開放した縁側で自ら育てたお茶によりもてなす「縁側カフェ」が人気です。

おおさわ縁側カフェ

大沢地区では、平成25年から町内全戸の協力の下で「おおさわ縁側カフェ」を始めています。大沢のおいしい緑茶や季節ごとのお茶請けなどとともに、昔ながらの農家の風情とそこで暮らす人々との交流を楽しむことができます。

●おおさわ縁側カフェマップ

●香り高い自園自製のお茶

●お茶摘み

静岡市

奥藁科・大川

おくわらしな・おおかわ

●緑が美しいお茶畑

●きれいな花を咲かせるそば畑

お茶の歴史が薫る邑

清流が流れるお茶栽培発祥の地、奥藁科・大川。山間部の澄んだ空気により良質なお茶をつくることできます。地域が一体となって中山間地域の振興に取り組んでおり、毎月第一・第三日曜日には「縁側お茶カフェ」が開催され、県内外から多くのお客様が訪れます。

多くの花を咲かせるそば畑

この邑では地元のそば愛好家で形成される「100年そばの会」が荒廃農地を活用して在来そばの育成をしており、秋には各所でそばの花が見頃を迎えます。大川産の在来そばと地域の小麦粉をつなぎに使ったそば作りも行われており、観光拠点と併せPRを行っています。

●多くの人で賑わう大間の縁側お茶カフェ

●農産物を購入できる大川収穫祭

●玄国茶屋の定食

静岡市

清水区西里

しみずくにしざと

●耕作放棄地を活用した麦の栽培（加工品の販売も実施中）

●日帰り温泉「やませみの湯」

古さを生かして新しいことに挑戦し続ける

清水区西里は、緑に囲まれた露天風呂や竹炭風呂などが楽しめる市営の日帰り温泉「やませみの湯」、地元で採れた新鮮な農産物や加工品の特産物加工販売施設「笑味の家」、食事処「たけのこ」のほか、ボードウォークやハイキングコースも整備されています。

美味しいジェラートが人気

西里”やすらぎの森”地区を主な活動場所とし、奥清水地域の魅力発信を行っているＮＰＯ法人複合力が経営する「ＣＯＭＯ」では、ハックルベリーや抹茶などのジェラートが人気です。地域の安全・安心な食材を使った手作りの味を是非ご堪能ください。

●NPO法人複合力経営「COMO」

●「COMO」店内

●人気のジェラート

静岡市

水見色

みずみいろ

●緑豊かな山々と渓流のせせらぎに包まれた山里

●NEXCO中日本との「一社一村しずおか運動」

天然の玉露を育むホタルと人の集う里

緑豊かな山々に囲まれた里山では、古くからお茶産地として名高く、上質な茶葉が育てられています。平成23年にはNEXCO中日本の方々と協働活動をはじめ、夏と秋の草刈りに加え、茶摘み作業等の応援を通じて、環境保全や交流も進んでいます。

新たな取組で地域を活性化

近年、地区外からの人々が加わり、古民家を再生してカフェやキャンプ、BBQを運営し静岡市からバスツアーを行う新たな取組や里山体験、手作り料理を味わえる「きらく市」など地域の魅力を新しい目線で発信しています。

●古民家カフェさじっとの家

●水見色きらく市で食べられるカレー

●水見色きらく市

静岡市

奥長島

おくながしま

●辺り一面に広がる茶畑

●ネッツトヨタ静岡㈱との活動

絶景スポットを守るために

足久保は「静岡茶発祥の地」としても知られており、今も足久保川に沿って茶畑が広がる風光明媚な地。中でも「大石川の茶畑」と呼ばれる段々茶畑は、絶景スポットとして有名です。地元に住む勝山さんは「奥長島の段々茶畑まもり隊」を結成し、茶園を守っています。

多くの人々に愛される茶畑

平成30年からはネッツトヨタ静岡㈱と連携し、お茶摘み体験や保全活動を実施しています。「お茶摘み体験」では普段体験することのできないお茶摘みに加え、新茶の試飲、ＢＢＱなどを楽しむこともでき、大人から子どもまで多くの方が邑を訪れます。

●奥長島だんだん茶畑守り隊の皆さん

●奥長島産のお茶

●お茶の試飲ができる「奥長島山茶」

静岡市

布沢

ぬのさわ

●豊かな自然に囲まれた布沢地区

●県内に出回ることが少ない布沢のたけのこ

幻のたけのこ

竹林と茶畑に囲まれた自然豊かな邑、布沢。鮎ややまめが生息する興津川の支流布沢川の清流のもとで育った「布沢のたけのこ」は、えぐみが少なく柔らかいのが特徴で、イベント等を通じて販路の拡大を図っています。

味わい深い両河内茶

春先の霧が立ち込め、良質なお茶を生産できる布沢。ブランド茶である「両河内茶」の若手生産者グループによる活動が活発です。「茶」を愉快に楽しみたい、とお茶だけでなくTシャツの販売等、新たな事業を展開しています。

●地域の有志による竹林の整備

●布沢の中心にある地域の宝「善光寺」

●地元のお茶を守るために活動する若手茶農家

静岡市

大代

おおじろ

●山中の美しい茶畑

●静岡大学との協働活動

若いパワーで邑に活気を

標高700mの静岡市の山中に、美しく刈り込まれた階段のような茶畑を見ることができます。この地域には一社一村しずおか運動による静岡大学農学部との協働活動により学生たちが10年以上通い続けていて、農作業を含む地域活性化に取り組んでいます。

協働活動を支える「梅ヶ島志村農園」

若い人が転入してきやすい環境をつくることを考え、しいたけ狩りやバーベキューで農園に人を呼びこんだり、高地であることを利用して真夏に出荷できるトマト栽培を新たに始めるなど、様々な方法で邑を盛り上げています。

●梅ヶ島天空ファーム

●しいたけ狩り

●天空トマト

静岡市

浜石岳と八千代の桜

はまいしだけとやちよのさくら

●浜石岳からの景色

●河津桜の並木道

浜石岳を愛する人々で邑づくり

北に富士山、南に駿河湾と抜群の眺望を誇り、ハイキングコースとして親しまれてきた浜石岳。地域を愛し大切にしていこう、と発足したのが「浜石岳を愛する会」。地区内の道路清掃や草刈りのほかに、毎年４月29日にはハイキング客をもてなす「浜石岳の日」を開催しています。

霊峰を望む春の賑わい

平成21年に大規模な農地造成事業が完了したことを契機に、樹園地ののり面に約350本の河津桜を植栽しました。冬から春にかけて日本一の富士山と麓の景色を彩る八千代桜は、春の賑わいを生む邑の自慢です。

●多品種の柑橘類を栽培

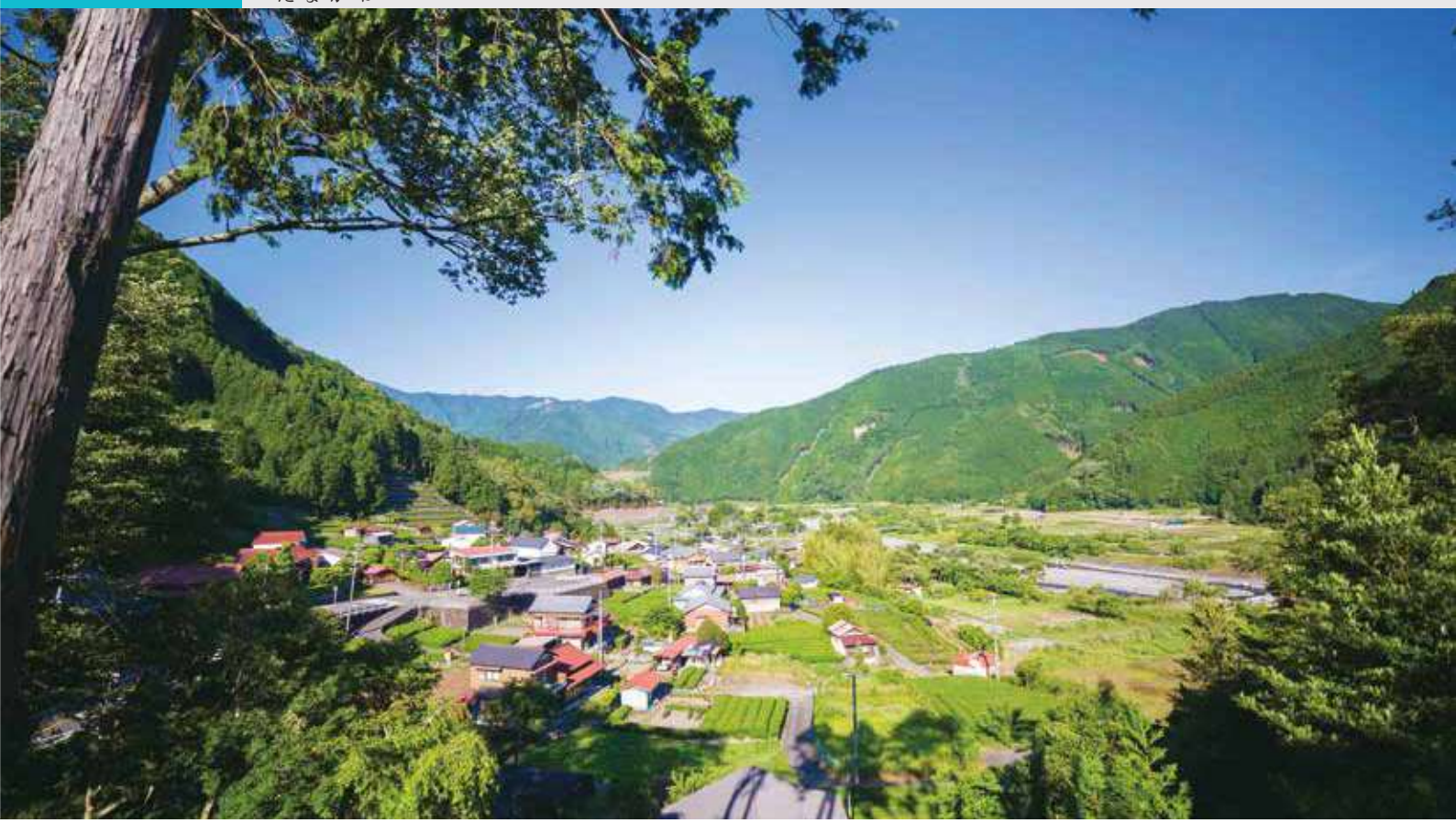
●邑から見える伊豆半島と駿河湾

●浜石岳の看板と富士山

静岡市

玉川

たまかわ



●豊かな自然に恵まれている玉川地区

●若者移住者の増加

移住者が増えている里山

地元有志が結束し、「一社一村しずおか運動」等を通じて、農地の保全や特産品の開発、農産物加工所の開設など、多彩な取り組みが行われています。地元が手掛ける遊休農地を活用したヒマワリ祭りなどの訪問をきっかけに、若い人の移住も増えています。

持続可能な邑へ

農産物加工所では、地元の主婦がお弁当を販売し地域の高齢者への宅配サービスも行っています。この活動によって、一人暮らしの高齢者を見守り、生活支援の体制も整い始めています。高齢者が安心して暮らし、若い人が活躍できる邑です。

●玉川の中心を流れる中河内川

●斜面に広がる緑の茶畑

●「一社一村しずおか運動」㈱季咲亭×玉川農産物

静岡市

梅ヶ島

うめがしま

●邑の上流部に位置する梅ヶ島温泉

●梅の里づくりによるイベント

梅がつなぐ地域の絆

温泉などの観光資源が豊富な梅ヶ島は、恵まれているが故に地域のまとまりがないことが悩みでした。そこで、梅やカエデの木を植える「梅の里づくり」を開始。地域の一体感を生み出すきっかけとなり、今では地区外の参加者も増え多様な主体を取り込んだ邑づくりを行っています。

賑わいを創出して人口回復

若い世代の人口流出が止まらない中、リモートワークやサテライトオフィスが浸透すれば過疎化が解消される可能性が大いにある、と移住者の受け入れに期待を寄せています。観光客の増加によって地域へのにぎわいが戻るのと同時に移住者も増えるのでは、と夢を膨らませます。

●桜まつりの様子

●人気の温泉が集まる邑

●邑特産のお茶を使った加工品

静岡市

小瀬戸

こ ぜ と

●歴史的資源が多く残る小瀬戸

●コミュニティガーデン「小瀬戸クローバーフィールド」

歴史的資源を再活用

小瀬戸城址や石切場趾など歴史的資源が多く残る小瀬戸。放置され荒れてしまっていた石切場までの道を復元したことを皮切りに、小学校の授業で地域の歴史を学ぶ場が設けられたりと、小瀬戸の文化と歴史を未来につなぐ活動が広がっています。

荒廃農地を人が集まる場所へ

荒廃農地を活用しようとコミュニティガーデンを整備しました。月1回程度、地区内外から多くの人が集まり、畑づくりや川遊び、竹の子掘りなどを実施。地区外の人の声は地域の意識を変えるいいスパイスにもなっているようです。

●イベントで収穫した竹の子から商品化した乾燥メンマ

●小瀬戸城址

●竹の子掘りイベントの様子

静岡市

小坂

おさか

●急傾斜地で育つ小坂のみかん

●小坂環境保全協議会のメンバー

伝統あるみかんを守るために

海の照り返しを浴びながら急傾斜地で育つ「小坂のみかん」には、とびきりの甘みとコクが詰まっています。農業人口が減少しているこの邑では、小坂環境保全協議会が伝統あるみかんを守るために機械を取り入れるなど、作業の効率化を図ってきました。

繋がる邑びとの輪

保全会の皆さんの取り組みは各自のふるさと愛をいっそう深くし、小学生による農業体験、地域住民によるそばの収穫体験等新たな交流を生み出しました。静岡市街から間近な地の利を活かし、今後も魅力を発信し続けます。

●地元で採れた果物はドライフルーツに

●小学生の田植え体験

●地域の人たちによる蕎麦打ち体験

静岡市

茂畑

もばた

●緑が美しい邑

●茂畑を支える皆さん

若い後継者のために挑戦を

先人から受け継いだ農業を守ろうと結成した「茂畑みどり保全会」。若い人が農業を継ぎやすくしようと荒廃農地にアーモンドの苗木を100本近く植えました。同会のメンバーたちは、アーモンドを商品化し家業を継いだ若手たちの支援策にしたいと意気込みます。

別天地のような景色を次代へ

お盆には邑を流れる波多打川に灯篭を流す「川施餓鬼」、秋には「秋の味覚祭」、お正月にはどんど焼きと、邑の人々が交流を深める行事が盛りだくさん。四季の行事を続けることが世代交代の第一歩になると信じ、茂畑みどり保全会の活動は続きます。

●地域の小学生が栽培するそば畑

●「秋の味覚祭」のマス釣り大会

●邑人たちが絵を描いた灯篭

静岡市

足久保

あしくぼ

●自然豊かな農村風景

●約1,500人が来場する足久保里まつり

静岡茶発祥の地

静岡茶発祥の地として広く知られる足久保地区。昼夜の大きな温度差と足久保川から沸き立つ霧が直射日光を遮り天然の覆いとなり、じっくりと美味しい茶葉を育んでいます。平成30年には足久保ティーワークスカフェに直売所が併設され、消費拡大に向けた取り組みが進んでいます。

自然や文化を存分に楽しめる

この邑では地域の長い歴史を後世に伝える祭事や、四季折々の自然・文化が楽しめるイベントが様々あります。足久保里まつりでは約400mの区間にお店が並び、地元の特産品の販売やアート作品の展示が行われ、地域の発展・振興に貢献しています。

●美しく広がる茶畑

●足久保先手観音献茶式

●足久保ティーワークスカフェ

島田市

神座鵜網

かんざうあみ

●歴史や伝統、自然豊かな「神座鵜網」

●大井川用水が通る神座水管橋

大井川の恵みを活かした農業の発展

神座地区には小笠地区約3,700haの田畑を潤す大井川用水が流れています。大井川の川霧を受けた高品質の茶に加え、水はけのよい良質な土壌では、良質なミカンやバラ、イチジク等の栽培が盛んに行われています。

友愛の心でふるさとの宝を未来へ

神座鵜網環境美化の会や自治会等が友愛の心で繋がり、みかんの収穫体験やお茶摘み体験、遊休農地を活用したコスモス畑づくりに取り組んでいます。地域の農業の発展と豊かな環境を後世に残す活動が広がっています。

●旬の野菜や果物等の販売「そうずら市」

●温暖な気候で育まれるミカン

●遊休農地の活用「コスモス畑」

越地

こえぢ

●田んぼと茶畑による緑のコントラストが美しい邑

●子どもたちとのれんげ畑での交流活動

絵に描いたような田園風景

越地の春はレンゲの花があたりを覆い尽くします。自治会を中心とした4町内が連携し、農業用水の管理・補修、花壇への植栽、レンゲ畑を活用した保育園児との交流活動などを行っていて、日本の原風景のような景色を楽しむことができます。

豊かな自然の恵みと生きる

越地は泳ぐ魚が見えるほど清く澄み、飲み水にも使われるほどの清流、家山川に育まれた川魚や農作物に恵まれた地域です。夏場は街からやって来るキャンピングカーが多く、子どもにとっては絶好の自然と触れ合える場になっています。

●邑の人々が協力して守る農地

●邑にある日本の原風景（第1回農村の魅力フォトコンテスト優秀賞_中田美智雄）

●邑人の暮らしになくてはならない家山川

湯日

ゆ い

●邑いっぱいに広がる茶畑

●湯日美里会会長の紅林さん（左）と副会長の富永さん（右）

品格あるお茶をみんなで守る

お茶の名産地の中でも格段に美味しいお茶を生産することで知られる湯日。平成25年度には皇室に献上する「献上茶」に指定されています。湯日の全ての大人が、お茶づくりを支える「湯日美里会」の会員になっており、他に類を見ない「まとまり」がこの邑にはあります。

「湯日らしさ」を新商品に託して

邑のさらなる知名度向上を図るため、湯日美里会は野菜ソムリエや県内メディアを巻き込んだ「コーン茶」の開発を行いました。湯日のお茶や地域の子どもたちの笑顔を守り続けるために、彼らの挑戦は続きます。

●世界一長い木造歩道橋「蓬莱橋」

●皇室に献上された湯日のお茶

●邑びとで賑わう七夕まつり

抜里

ぬくり

●新茶色の世界（第4回農村の魅力フォトコンテスト入賞_宮川和典）

●無人駅の芸術祭の作品「茶園のカーテン」

邑の資源を目一杯活用

NPO法人クロスメディアしまだにより、平成30年から「UNMANNED無人駅の芸術祭」が開催されています。大井川鉄道の無人駅周辺に広がる農山村を活用した広域アートイベントであり、世代を問わず地域内外の交流が図られています。

ふるさとを感じられる休憩所

抜里駅には週末だけ開かれるおもてなし処「さよばあちゃんの休憩所」があり、畑で採れた新鮮な野菜や食材を使った手料理を地元のお母さんたちが振舞います。「無人駅の芸術祭」開催中は地域内に屋台が置かれ、お茶や自然薯など地場産品が売られます。

●線路沿いを彩る黄旗

●お茶の加工場「川根茶ぬくり園」

●笑顔溢れる「サヨばあちゃんの休憩所」

ささま

●静岡らしい茶園景観

●国際陶芸フェスティバルinささま

廃校舎を未来の資産へ

「山村都市交流センターささま」は、かつて地域の子どもたちの学び舎でした。約130年の歴史に幕を閉じた後、未来の資産として残すべく地域住民の手によって再生されました。年間を通して開催される多彩なプログラム目当てに県内外から多数の利用客が訪れます。

You know me（湯呑）でPR

２年に一度開催される「国際陶芸フェスティバルinささま」は、世界中から多くの陶芸家や愛好家が集まり地域住民との交流を深める一大イベントです。ささまの魅力を国内外へPRする絶好の機会となっており、海外からの移住者も現れました。

●山村都市交流センターささま

●山奥の弁当屋「ひなたぼっこ」

●里山の茶の間

島田市

間の宿 菊川

あいのしゅく　きくがわ

●茶畑に囲まれたのどかな邑

●「ごりやくの会」の皆さん

世代を超えて邑の魅力を発信

地域の活性化に取り組む「ごりやくの会」。60～70代が活躍していましたが、数年前に30代の若手に代表がバトンタッチされました。ウォーキングや茶の実オイルを使った灯りアートなどを実施。お年寄りの知恵と若者の視点で、邑の活性化を目指しています。

訪れる人たちの第二のふるさとへ

地域の資源である茶畑を活かし、釜炒り茶を作りました。お茶農家さんに教えてもらいながら丁寧に手もみするお茶は、香り豊かでうまみたっぷり。訪れる人たちの”第二のふるさと”を目指した邑の取り組みはまだまだ始まったばかりです。

●茶の実油を使った竹灯篭「灯りアート」

●釜炒り茶加工の様子

●里山の素材をたくさん使ったミニ門松づくりのワークショップ

いくみ

●清流、伊久美川流域に広がる緑豊かな人里

●大自然の中でのサマースクール

地域ぐるみで子どもたちを育む

清流で知られる伊久美川は毎夏、アユ釣りや川遊び、バーベキューを楽しむ人々の笑顔であふれています。小学生を対象とした「サタデーオープンスクール」は、大自然の中で学区の垣根を越えて交流。人を思いやる心、感動する心が育まれています。

邑の愛着醸成に向けて

過疎化が進む中、地域の生き残りをかけた切実な思いのもと子どもたちとの活動が始まりました。地域資源を活用して、稚鮎の放流やハイキングなどの体験学習が行われています。小学校の運動会には住民も参加し、邑人みんなで盛り上がります。

●釣りや燻製作りが体験できる観光スポット「やまめ平」

●菩提山ハイキングコースの山頂からの眺め

●伊久美小学校の生徒が行う稚鮎の放流

東町

ひがしちょう

●休耕田を彩るレンゲ

●体験学習を行う小学生

昔懐かしい春景色を目指して

ひと昔前、東町に当たり前のように広がっていたレンゲ畑。昔懐かしい景色を復活させようと、東町水環境委員会が中心となり令和元年から収穫を終えた田んぼにレンゲの種を播いています。田んぼの中にレンゲの葉や茎をすき込んで作る「レンゲ米」作りにも挑戦しています。

農業体験の場がたくさん

東町にある六合東小学校の生徒たちは、授業の一環として田植えからお米の収穫までを体験します。また、小学生を対象とした農業のイベントも開催されており、農業の魅力を知ることのできる場が多数提供されています。

●大勢の人で賑わう東町夏祭り

●自治会役員や有志による草刈り

●大津谷川の川沿いを彩る桜堤防

焼津市

中の島

なかのしま

●地域で管理する農業用水

●田植え体験

古くから伝わる美しい水田を守る

伊勢神宮の荘園「小杉御厨」があった地域で、水田では今も稲作が行われています。毎年、地元小学生を対象に田植えや稲刈りなどの体験を通じ「食」について見つめ直す場を作り、水田が地域の財産であることを学べるようにしています。

地域の風物詩「例大祭」

町内会や子ども会、部農会などが連携し、農業用水の清掃や遊歩道へのヒメイイワダレ草の植栽、農業体験などの活動を行っています。地域の連携感を高めているのは上小杉町八幡宮で行われる例大祭です。神相撲や流鏑馬（やぶさめ）などの伝統行事とともに地元を愛する気持ちが育まれています。

●成案寺川の川さらい

●満1歳の男の子が相撲を取る「神相撲」

●地元の青年が行う「流鏑馬」

西島

にしじま

●一面に咲き誇るコスモス

●コスモス畑でのひととき

心温まるコスモス畑

平成11年から地域内外の人々に楽しんでもらうために、コスモスの植栽を始めました。口コミが広がり、訪れる人々は年々増加。地域の人気スポットの一つとなりました。このほかにも、子どもたちを交えたお祭りや農業体験なども行われ、地域が一つとなって邑づくりに取り組みました。

大井川の水防の歴史

西島の人々は、かつて大井川の氾濫を恐れ、家屋敷を洪水から守るための「舟型屋敷」を形成していました。また、明治時代に大井川の堤防建設に尽力した斉藤伝一郎氏は、その後、西島報徳社を設立、地域の発展に貢献し、頌徳碑にその遺徳が刻まれています。

●環境保全活動

●舟型屋敷

●斉藤伝一郎氏の遺徳が刻まれし石碑

焼津市

方ノ上

かたのかみ

●のどかな里山の風景

●農家の協力でサツマイモの蔓挿しを行う子どもたち

地域への愛着を育むために

高齢化が進み農地管理に不安の声が上がっていた方の上。平成29年に発足された「方の上美農里」は「地域の子どもを地域で育てよう」との思いのもと、地域と子どもたちの交流の場の創出に励みました。サツマイモ収穫やホタルの放流など、イベントは多岐に渡ります。

多様な観光資源

子どものためのイベントのみならず、生産者の顔が見える「みのりマーケット」、地域外からも多くの観光客が訪れる「さくら祭り」など、住民同士の親睦や他地域との繋がりが深まるイベントが盛りだくさん。地域の活性化と農業振興につながっています。

●農産物の販売会「みのりマーケット」

●方の上産の古代米を使った餅つき大会

●朝比奈川堤の「山の手桜」

殿

とのの

●コスモスによって地域一帯がピンクに染まる

●殿の虫送り

手作りで楽しむ地域の伝統行事

朝比奈城跡の足元にある殿地区では、害虫駆除の意味を持つ「虫送り」や、戦国時代の「のろし」が起源とされる「朝比奈大龍勢」といった伝統が大切に受け継がれており、大人から子どもまでが協力する手作りの伝統が息づいています。

コスモスの新たな風物詩

10月中旬には、子どもからお年寄りまで邑人をあげて休耕田に種を蒔いたコスモスが地域一帯をピンク色に染めます。その景色を目当てに週末は大勢の見物客が訪れ、コスモスの切り花や産直売り場が賑わいます。

●日本三大玉露の産地

●地域の伝統「朝比奈大龍勢」

●コスモスの種まき

本郷

ほんごう

●のどかな里山風景が広がる

●ビオトープで開催される生き物観察会

企業との連携で生まれた邑の自慢

「小野田沢ビオトープ」は、里山の自然保全や休耕田の整備サポートを行う「本郷ふる郷普請の会」が地元企業の株式会社エクノスワタナベと連携して整備を行いました。ビオトープを通じて若い世代や子供たちが楽しめる場を作りたい、という思いで本郷は邑づくりに取り組みます。

生き物との触れ合いを楽しむ場

里山の保全活動によって多様な動植物が息づくビオトープでは、季節ごとに生き物と触れ合うイベントが開催されます。企業から派遣される専門講師や学生ボランティアが加わって行われるこのイベントは、地域の子どもたちが自然に触れ合う貴重な機会となっています。

●企業との連携

●生息する生き物をまとめた資料も作成

●荒廃農地を解消して作ったコスモス畑

藤枝市

岡部本郷

おかべほんごう

●地域住民の力で復活した「ふるさとみかん山」

●みかん収穫体験の様子

地域の力で憩いの場を創出

荒れていた5,700㎡の土地に柑橘の植樹、遊歩道や展望台の整備などの構想を練り、地域住民の力で「ふるさとみかん山」を復活させました。収穫時期になると地元の学校、養護施設等が体験学習に訪れ、農業への理解を深めると同時に故郷に愛着や誇りを感じる場となっています。

一致団結して作る邑

住民同士の交流が深く、地区外から転入してきた人も地域行事に協力的な岡部本郷では、年3回、農道や用水路の整備が行われます。木が覆いかぶさるなどして管理が大変な施設ですが、地域住民約110人が参加し、地域の一体感をさらに深めています。

●農道や用水路の整備活動

●邑自慢のみかん

●みかんを使ったオリジナル料理

藤枝市

葉梨山水会

はなしさんすいかい

●緑が美しい葉梨西北部の全景

●淡いピンクの花を咲かせるアーモンド

豊かな自然に囲まれた邑

美しい自然に溢れる葉梨西北地区。山に広がるみかん畑やお茶畑、葉梨川沿いにはアーモンドの花や彼岸花など四季を通じて様々な花が咲き誇ります。また5月の中旬から6月初旬までの間はホタルが葉梨川を舞い、人々の目を楽しませます。

里山の魅力を発信

アンテナショップ「白ふじの里」では、地元で開発した「しょうがシロップ」と「しょうが醤油」が販売されています。地元産のしょうがを使用しており、美味しさがギュッと詰まっています。この施設では他にもそば打ち体験や味噌づくり教室等を行っています。

●アンテナショップ「白ふじの里」

●葉梨川の彼岸花

●海外出荷もしている葉梨のみかん

藤枝市

滝沢・滝の谷

たきさわ・たきのや

●緑に囲まれた滝沢・滝の谷

●邑の繋がりをつくる「人と農・自然をつなぐ会」の皆さん

たくさんのモミジに囲まれた邑

滝沢・滝の谷はモミジの名所として知られる邑です。ハイキングコースでは渓谷の自然を楽しみながら、夏には青モミジ、秋には紅葉に心が癒されます。11月には「不動峡もみじ祭り」が開催され、地元の農産物が販売されます。

人と自然が繋がる農村体験

この邑には若い移住者が結成した「Seetoya」という有志グループがあります。地域の自然に魅せられ移住してきた彼らは、様々な体験活動を通じて地域の魅力を国内外に発信。最近では海外からも人が訪れるようになりました。

●毎年11月に開催される不動峡もみじ祭り

●田舎体験ができる「水車むら」

●美しい青モミジ

藤枝市

市之瀬

いちのせ

●古民家をリノベーションした縁側カフェ

●外部人材と連携して開発された「いちのせ檸檬」

地域内外に魅力を発信

高齢化が進む故郷を盛り上げようと、市之瀬で生まれ育った若手メンバーが「市之瀬盛り上げ隊」を結成。市之瀬の魅力を地図に落とし込んだウォークラリーイベント「おかえりな祭 市之瀬へ」を定期的に開催し、地域に賑わいをもたらしています。

外部も巻き込み邑を活性化

この邑では放棄農園の解消を図るため、平成28年からレモンの改植活動が行われています。地域おこし協力隊や静岡産業大学等、外部の人材と連携し「いちのせ檸檬」の商品化に成功しました。瀬戸谷温泉ゆらく施設内の「ちょっくら」にて購入することができます。

●市之瀬盛り上げ隊の皆さん

●市之瀬で育ったヤマメの炭火塩焼き

●市之瀬交流ヴィレッジ「おかえり」

玉取

たまとり

●玉取地区の沢から採れた美しい球形の石「たまゆら様」

●草刈りを行う様子

地域の景観保全に取り組む

玉取地区では、町内会や婦人会等住民全体で農地や景観の保全に取り組む組織「玉取里山プロジェクト」が活動しています。このプロジェクトは、日常的な草刈りや農道の整備の活動に加え、獣害からお茶等を守るために獣害防護柵の設置を行っています。

おいしさを追求した「玉取茸」

玉取杉山農園にて栽培されている、肉厚でボリュームがあり、ジューシーなおいしさが特徴の菌床椎茸。
栽培するハウス内にはモーツァルトが流れ、ゆっくり時を重ね育てられた玉取茸は、第26回静岡県生しいたけ品評会にて農林水産大臣賞を受賞している。

●活性化施設「たまゆら」

●玉取杉山農園の「玉取茸」

●子どもの遊び場にもなる谷倉沢

菅山原

すげやまはら

●視界いっぱいに茶園が広がる菅山原

●荒茶生産者グループ「もみもみ会」のみなさん

牧ノ原の大茶園を創世記からささえる

明治時代に相良藩士により開拓された牧之原大地「菅山原」には、大井川からの農業用水を利用し、日本一の大茶園が広がっています。地元の人たちには日本一を支えている自負があり、歴史と心意気を次世代へ繋いでいます。

水の尊さを知る邑

かつては大井川へ農業用水を汲みに出かけていた菅山原。用水施設が整備されたことで水のありがたみを身に染みて感じており、住民総出で施設の保全管理に努めています。また、水源である長島ダムの見学会で水源の大切さを知ってもらっています。

●ファームポンド（用水貯留施設）の清掃

●ブランド茶「望」

●長島ダムを見学する邑の小学生

坂部

さかべ

●お茶も美味しい坂部

●ゆるキャラ「さかべっち」

工夫を凝らした魅力発信

平成21年に富士山静岡空港が開港したことをきっかけに、坂部は空港隣接の邑として新たな活動を展開しました。ゆるキャラの誕生、ＳＮＳによる情報発信、そして令和６年には坂部の魅力が詰まった道の駅がオープンする等、お手本となる邑づくりが進められています。

持続可能な邑づくり

お米の裏作にレタスを取り入れる、休耕地で新作物の試験栽培をする等農業にも力を入れています。また坂部には世界でも珍しい３種のホタルがそろって生息しており、豊かな環境を守り継承しようと坂部小学校の生徒に向けて水辺観察会などを定期的に実施しています。

●農業体験をする坂部小学校の生徒

●早咲き桜の新名所「坂口谷川河津桜祭り」

●お米の裏作にはレタスを栽培

牧之原市

蛭ケ谷

ひるがや

●茶畑が広がる蛭ケ谷

●小学生を対象にした食育

地域の景観形成は自分たちの手で

山間の傾斜地でお茶やみかん、平地では米を生産している蛭ケ谷。農地や農道の脇には花の植栽がなされ、美しい農村景観が守られています。「蛭ヶ谷みのり会」が中心となり、地域の環境美化や農村環境の向上に積極的に取り組んでいます。

特産品を次世代へ繋ぐ

地元有志で作る自然薯会は、小学生を対象に植付から収穫までの栽培指導を行っています。これは、市の特産品である自然薯を知ってもらい、次世代に伝えていくことを目的に小学校の総合学習の一環として実施されています。

●農作業体験の様子

●国重要無形文化財に指定されている「田遊び」（第8回農村の魅力フォトコンテスト入選_小沢大）

●農用地や農道に植栽される景観作物

吉田たんぼ

よしだたんぼ

●吉田町の広大な田園風景

●富士山とレタス畑が鮮やかな冬の吉田たんぼ

千年の時を刻むたんぼ

吉田町には、平安時代から稲作が続けられてきたとされる「吉田たんぼ」と呼ばれる広大な田園風景があり、夏には米、冬にはレタスと季節によって景観を大きく変えながら地域に豊かな実りをもたらしています。特にレタスは全国屈指の生産量を誇ります。

邑一体となって田んぼの魅力をPR

広大な田園風景から望む雄大な富士山。「四季折々の田んぼの景色が楽しめる吉田たんぼを知ってほしい」との思いから、町内農業者と地元企業等が協働で吉田たんぼの魅力をまとめた動画を制作しました。動画は吉田町ＨＰに掲載されています。

●レタスの収穫作業

●レタスメンチカツと太巻き

●吉田たんぼのPR動画

徳山

とくやま

●大井川鉄道が走る徳山

●鹿の面をつけた少年が舞う「徳山の盆踊」

農山村文化を未来へ継承

大井川鐵道が地域の中心部を走る徳山地区は、川根茶の生産地として親しまれている地域です。毎年8月15日に徳山浅間神社で行われる「徳山の盆踊」は、鹿の面をつけた少年と小唄に合わせた少女たちが優雅に舞い、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

地域住民が作り上げた「ときどんの池」

「ときどんの池」は、地域住民が自分たちで作り上げた公園です。きれいに整備され、地域住民の憩いの場になっています。隣接するホタルドームでは、時期になるとホタルが飛翔する姿をゆっくりと見ることができます。

●小唄に合わせて舞う少女

●ときどんの池

●ホタルドーム　ホタルの飛翔

池の谷・閑蔵

いけのや・かんぞう

●川根茶産地の最北集落

●池の谷キャンプ場

集落が管理・運営する「池の谷キャンプ場」

川根といえば「川根茶」、その産地でも最も北に位置する池の谷・閑蔵は、山々に囲まれた箱庭のような小さな邑です。河畔林の中にある池の谷キャンプ場は近くで川遊びもできる夏に最適なキャンプ場となっており、その運営・管理は集落が行っています。

ボラバイトを通じた都市農村交流

人手不足解消と都市農村交流を進めるため、茶園の管理作業に援農の「ボラバイト」を受入れています。お茶の時期になると農家のもとで茶業体験を行うことができ、これまでに多くの若者が自然と人に触れ合いながら農作業に参加してきました。

●楽しい川遊び

●ボラバイト

●川根茶

地名

じ な

●上空から見た邑

●小学生を対象とした歴史勉強会

先人の偉業を大切に次世代へ

川根本町唯一の水田地帯が広がる地名。明治初期に用水路が整備されたことで、地域は命を繋いだといいます。約30年前から小学校の歴史勉強会で用水路建設を推進した偉人について語り継いでいます。先人の偉業と用水路の恩恵を大切に守り続けます。

小水力発電で獣害対策を実施

豊富な農業用水を活用した小水力発電を実施する地名。発電された電力は、農作物を害獣から守る電気柵など、地域の資源を守るために活用されています。郷土の偉人が築いた用水路を語り継ぐとともに将来を明るく照らす行動力は、今後も地名に活力を与えることでしょう。

●邑に広がる水田

●かかし祭りの様子（2年に一度開催）

●地名の特産物（お米、お茶、シイタケなど）

けっこい瀬平

けっこいせひら

●けっこい（美しい）茶園の景観

●地域全体で麦を束ねて舟を作る

江戸時代から続く「平谷の流し焚（たい）」

麦の藁でドーナツ状の舟をつくり、松明に火を灯し大井川に流す平谷の流し焚。文政11（1828）年に大洪水が起こり、多くの人々が犠牲になったことから自然に対する畏敬の念を示すために始められ、一度も途絶えることなく続けられています。

川根茶の歴史を語る美しい茶園

明治時代、大井川３大港の一つである平谷の港から海外へ輸出された川根茶。その名声を引き継ぐ瀬平の茶園は、今も「けっこい」（美しい）景観で心を癒してくれます。地域にはお茶を購入できるお茶屋さんもあります。

●いつまでも美しい川であるよう捧げる祈り

●平谷の流し焚の様子

●大人と子どもが力を合わせて作る流し焚

川根本町

縁結びの村くのわき

えんむすびのむらくのわき

●邑自慢のぬた平

●くのわき未来の会

絶景と縁結びで邑おこし

邑の将来に危機感を抱き結成されたのが「くのわき未来の会」。邑の中に点在する「縁結び」の史跡に注目し、地域おこしを始めました。自慢の茶畑と地域住民の人柄の良さを未来に継承し、邑を出た人が戻ってきたいと思う故郷にすることを目標に活動を展開しています。

昔と今をつなぐ食

昔、米が作れない邑では代わりにそばを栽培していました。当時はそばも貴重であったため、細切りの大根でかさ増しした「大根そば」を客人にふるまっていました。地域おこしの一環で、この郷土料理を復活。さらなる邑の活性化を目指します。

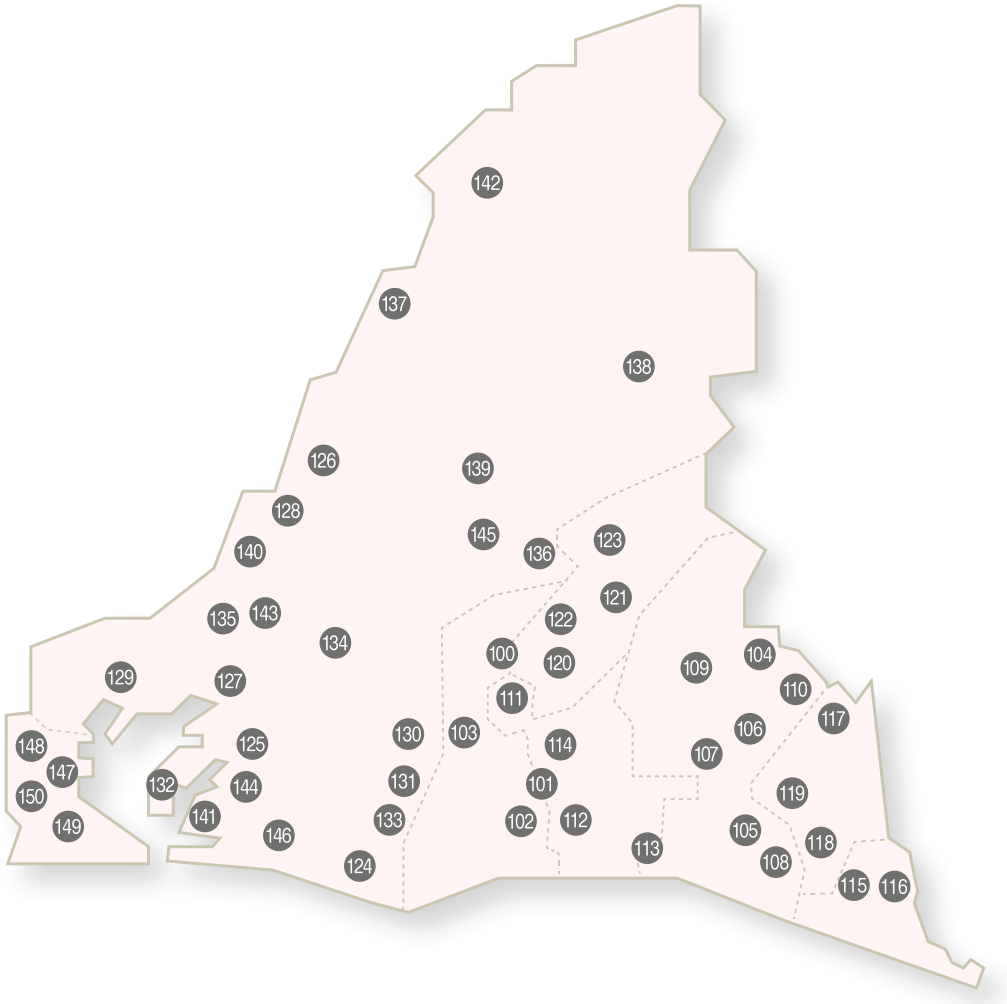
●郷土料理「大根そば」

●そば作り体験の様子

●川根茶ワークショップの様子

西部地域

西部地域 51邑



100 敷地村 …… P108
101 とんぼの里 岩井 …… P109
102 田原地区 …… P110
103 岩田 …… P111
104 茶文字の里 東山 …… P112
105 高天神の里 …… P113
106 東山口・西山口 …… P114
107 掛川天守をのぞむ里 …… P115
108 そよかぜ広場 …… P116
109 報徳・温泉・農業の里倉真 …… P117
110 深蒸し茶と東海道宿場の里 日坂 …… P118
111 源氏とひまわりの里 …… P119
112 諸井里山の会 …… P120
113 とうもんの里 …… P121
114 いまい保全の会 …… P122
115 カカシ祭りの里 新野 …… P123
116 朝比奈 …… P124
117 千枚の棚田 …… P125
118 嶺田用水の里 …… P126
119 こがね色の里 …… P127
120 森町南部 …… P128
121 天方 …… P129
122 一の宮の里 …… P130
123 歴史と自然が奏でる里山 三倉 …… P131
124 地域いきいき共生! 恩地町環境みどり会 …… P132
125 和地ふるさと会 …… P133
126 夢未来くんま …… P134
127 銅鐸と水田のふるさと中川 …… P135
128 大好き! 渋川 …… P136
129 三ヶ日みかんの里 …… P137
130 中郡地区 …… P138
131 中ノ町地区 …… P139
132 村櫛地区 …… P140
133 大塚地区 …… P141
134 都田地区 …… P142
135 ～竜ヶ石山～西四村の里 …… P143
136 いっぷく処横川 …… P144
137 そばの里づくり 佐久間 …… P145
138 はるの山の村 …… P146
139 ほっと龍山 …… P147
140 ひずるしい鎮玉 …… P148
141 らびりんすゆうとう …… P149
142 水窪地区 …… P150
143 久留女木の棚田～竜宮小僧伝説の邑～ …… P151
144 美竹林と極旨野菜の里 …… P152
145 花桃の里 …… P153
146 潮騒響くたまねぎの里篠原 …… P154
147 新所水とみどりのプロジェクト …… P155
148 神座里山多夢の会 …… P156
149 佐吉の里・山口 …… P157
150 日本一前向きな地区! 前向 …… P158

敷地村

しきじむら

●邑を鮮やかに彩る柿

●邑の特産品「ころ柿」

「互産互消」で交流拡大

特産品スイーツを産地で作っても面白くない、と始まった「互産互消」。敷地村では、柿が育たない北海道へ次郎柿を提供し柿スイーツを開発しています。お互いの地域の魅力を伝え合い、交流することで新しい価値が生まれ、交流人口を増やすきっかけにも繋がっています。

地域の文化を掘り起こし耕す

地域の文化を掘り起こし、耕すことが地域おこし。イベントが観光として消費されるのではなく、訪問者が地域住民と一緒に考え、一緒に運営することが大事と捉え、大学や企業、外国人などと連携し邑づくりを進めています。

●ころ柿を使ったスイーツの実演

●敷地村を考えるワークショップ

●特産物のアンテナショップ「白壁館」

磐田市

とんぼの里 岩井

とんぼのさと　いわい

●一面に広がる菜の花畑

●地域住民によって保全される「桶ヶ谷沼」

水辺と農地が美しく調和

磐田市の岩井地区には、古き良き里山の風情を残した水辺と農地が美しく調和する景観が今も残っています。春先に桶ヶ谷沼南側で一面に広がる菜の花畑を見られるなど、邑では四季折々の自然をハイキングで楽しむことができます。

国内有数のトンボの生息地「桶ヶ谷沼」

地域住民を中心に「桶ヶ谷沼」周辺の里山保全を行った結果、トンボを始めとする多様な生物が生息するようになりました。また、この邑では、トンボや鳥類、魚類等の生態調査や自然観察会を実施し、自然教育の推進を図っています。

●桶ヶ谷沼ビジターセンター

●桶ヶ谷沼ビジターセンター展示ホール

●絶滅危惧種ベッコウトンボ

田原地区

たはらちく

●地域の人たちが作った水車が並ぶ田原水車の里

●サツマイモを収穫する田原小学校の1年生

大切な景色を未来へ繋ぐために

高齢化に伴う担い手不足と遊休農地の増加に頭を悩ませていた田原地区。そんな中地元農家を中心に「田原みどりの会」を立ち上げ、遊休農地を使った小学生向けの体験活動を始めました。ここでは稲作の体験や野菜の栽培を行うことができます。

食育を通じた担い手育成

子どもと大人が一緒になって行う体験学習は、地域全体で子どもたちを見守り育てようという雰囲気に繋がり、地区の未来を明るく照らします。「農家になりたい」と話す児童も現れた田原地区。これからも地域農業の担い手の育成を通じ、持続可能な農村環境を目指します。

●田原みどりの会の皆さん

●環境整備をする邑の皆さん

●地元JAとも協力して行う食育活動

岩田

いわた

●地域に彩りを添えるコスモス

●オリーブの収穫体験の様子

地域を結ぶ農地保全活動

天竜川と磐田原台地の間に広がるのどかな岩田地区で邑づくりを行うのは「岩田故郷の会」。増加していた荒廃農地を約1ha解消し、花や野菜、果樹を植栽し地域の環境保全活動に取り組んでいます。年間80回以上の活動は、地域を愛する熱量そのものです。

農地が農育・食育の場に

ジャガイモ堀りやソバの脱穀といった農業体験のほかに、オリーブしぼり体験や紅花による草木染体験、自家製小麦粉を使ったピザ生地作りなど、地域住民や地元小学生を対象にしたイベントを年間20回以上行っています。地域の農地が農育・食育の場として活躍しています。

●岩田故郷の会による保全活動

●親子食育講座にてソバ打ち体験を実施

●世界かんがい施設遺産に登録された寺谷用水

掛川市

茶文字の里 東山

ちゃもじのさと　ひがしやま

●粟ヶ岳の斜面にある大きな茶文字

●山頂のかっぽしテラス

眼下に広がる広大な茶畑

標高532mの粟ヶ岳は「茶」の文字の山として有名です。晴れた日には山頂のかっぽしテラスから世界農業遺産・茶草場農法が培ってきた茶園をはじめ、富士山、駿河湾、南アルプスなどが一望できます。また、テラスでは地元食材を使用したランチを楽しむことができます。

世界農業遺産「茶草場農法」

刈り取った草を茶園の畝間にしきつめる茶草場農法で、有機物の多い土壌にして良質なお茶を育てている東山。世界農業遺産にも認定されている茶草場農法は、150年以上昔から行われています。この方法で多くの生物の生息環境を生み、生物多様性を保っています。

●地元の食材を使用したメニュー

●山頂から見える茶園（第6回農村の魅力フォトコンテスト準特選_守谷恵介）

●茶園の畝間に敷き詰める茶草

高天神の里

たかてんじんのさと

●風光明媚な風景の中に歴史の痕跡

●米作り･お茶作りが盛んな邑

名城の里に絶えない住民の誇り

戦国時代、武田と徳川の合戦の舞台となった高天神城は、難攻不落の名城として知られた山城です。現在は遺構を残すのみですが、住民の誇りは絶えません。邑には減農薬・減化学肥料米の「高天神コシヒカリ」や「掛川茶」などの名産品もあります。

風光明媚な風景の源

本丸跡からは、東の水田や高台でのお茶、南の遠州灘を見渡すことができます。昭和40年、用水路の整備をきっかけに、地域に一体感が生まれ、現在は、住民総出で農業施設の保全活動や花壇の手入れなどを行い、交流を深めています。

●皇室献上米にもなった「高天神コシヒカリ」

●高天神社例大祭

●本丸跡へ至る道筋

東山口・西山口

ひがしやまぐち・にしやまぐち

●美しい茶園が広がる東山口･西山口

●お芋の収穫体験

野菜づくりを通じて地域や人とのつながりを育む

掛川市の東部、国道1号沿いに「東山口地区」と「西山口地区」があります。
ここでは、「農」の喜びを伝える目的で農業体験などが盛んに行われています。子どもから大人までが農作業を通じてつながる農村ならではの人の温かさが感じられる場所です。

邑を彩る梅の花々

東山口地域にある「掛川梅園こちの里」。35aの農地に100本の梅が栽培されており、2月中旬から3月上旬に見頃を迎えます。「道の駅掛川」やJA直売所の「さすが市」にはこちの里で育ち女性部によって生産された完熟梅が出回ります。

●田植体験

●地元の野菜が並ぶ「道の駅掛川」

●掛川梅園こちの里

掛川市

掛川天守をのぞむ里

かけがわてんしゅをのぞむさと

●高くそびえたつ掛川城

●地域の人も生産に携わる「掛川城酎」

農業の振興と活性化を目指して

農家、地域、農協、行政が一体となって活動を行っている「掛川地域塾」。大人から子どもまでたくさんの人々がともに農作業を行い、農業の歓びや苦労、そして本当の価値を学びます。また、市街地にある農地の多面的機能の有効性も知ることができます。

自分たちで作る「掛川城酎」

「掛川城酎」は地元で採れたサツマイモを使った焼酎です。植え付けから収穫まで、生産には地域の人も携わっています。遊休農地で育てたサツマイモを使用して作った芋焼酎。米こうじを使って芋特有のくさみを抑えた飲みやすい仕上がりが特徴です。

●サツマイモ収穫の様子

●生産者直売のけっトラ市

●掛川地域塾の皆さん

掛川市

そよかぜ広場

そよかぜひろば

●広大な敷地に広がっていた菜の花畑

●水田のり面の草刈作業

農地が復活!

約2万㎡の広大な敷地に、春は菜の花、夏はひまわり、秋はコスモスと季節の花々が人々の目を楽しませていた”そよかぜ広場”。かつては天皇皇后両陛下が訪れたことも。もともと荒廃農地対策として始まった活動ですが、現在は耕作者が見つかり農地へと復活を遂げました。

地域の未来を地域でつなぐ

美しい地域環境を未来へ!という思いを胸に、多面的機能支払交付金制度に取り組んでいます。後継者不足による農地や農業用施設の老朽化、維持管理の困難などが課題となっていましたが、地域で協力して施設の保全・補修のほか、景観形成、生態系保全にも取り組んでいます。

●景観形成活動

●夏のひまわり畑

●邑のシンボル(掛川市民文化会館シオーネ)

掛川市

報徳・温泉・農業の里倉真

ほうとく・おんせん・のうぎょうのさとくらみ

●報徳の教えが息づく里山

●手作りで整備したハイキングコースを楽しむ人たち

オール倉真で邑づくりを推進

川沿いには田んぼ、丘陵地には茶畑と豊かな自然に囲まれた倉真。先人たちの手によって育まれてきた歴史や文化が詰まっています。河川や森林の整備、小学生の稲作体験等、住民の活発な活動が地域を支えています。

地域資源を生かした魅力づくり

地域を支える活動として、粟ヶ岳のハイキングコースの整備やイベントの開催、地区で譲り受けた古民家の再生を行っています。さらに、訪問者が迷わず観光できるよう住民の技術と力を集結し、地元の木材を使った看板も設置しました。

●歴史を感じる報徳神社

●世界農業遺産「茶草場農法」掛川倉真深むし茶

●邑のシンボル　古民家「こんにゃく亭」

掛川市

深蒸し茶と東海道宿場の里 日坂

ふかむしちゃととうかいどうしゅくばのさと　にっさか

●日坂の茶畑

●世界農業遺産「茶草場農法」

地域ブランドで邑を盛り上げる

世界農業遺産に登録されている茶草場農法で上質なお茶を生産している日坂。地域内の茶業組合と茶商が共同で地域ブランド「日坂茶」を商品化。さわやかな香りとすっきりとした味わいが人気で、掛川市のふるさと納税の返礼品にも選ばれています。

歴史のロマンと文化芸術の邑

東海道の宿場町として栄えた日坂は、江戸時代の面影を色濃く残しています。茶・茶産地×アートの視点から魅力を再発見する芸術祭「かけがわ茶エンナーレ」など現代アートや音楽の会場としても使われ、多くの観光客が邑を訪れています。

●東海道日坂宿　旅籠屋「川坂屋」

●地域ブランド「日坂茶」

●かけがわ茶エンナーレ

袋井市

源氏とひまわりの里

げんじとひまわりのさと

●沿道のひまわりとコスモス

●満開に咲くひまわり

ひまわりが繋ぐ人の出会い

秋に咲く見渡す限りのひまわりと、沿道に咲くコスモスのピンク色の花との美しいコラボレーションが楽しめる源氏とひまわりの里。ひまわりの咲くころに県外からリピーターの方が来ることも多く、地域内外から愛される花畑となっています。

源朝長公を祀る邑

この邑には、鎌倉幕府を開いた源頼朝公の兄で地名の由来ともなった源朝長公（源頼朝・義経の兄）を祀った墓があります。毎年８月15日の夜には朝長公を偲ぶ祭り「御祭例」が行われます。この祭りは袋井市指定無形民俗文化財に登録されています。

●地域の特産品である温室メロン

●カカシとコスモス

●源朝長公の墓所

袋井市

諸井里山の会

もろいさとやまのかい

●優雅に泳ぐ鯉のぼり

●諸井里山公園

里山から生まれたつながり

子供のころの自然を取り戻したいと始まった「諸井里山の会」。初めは数人の有志でしたが、今や地元の大人や子どもたちだけでなく地域外からも多くの人々が活動に参加し、かつての自然の風景を取り戻しました。里山が生み出した繋がりは、世代を超えて根付いています。

子供たちの成長を祈って

毎年４月、緑豊かな里山に80匹以上の色鮮やかな鯉のぼりが優雅に泳ぎ、邑に彩りを添えます。子どもたちの成長を祈って始まった活動は、１か月で700人以上の人々が訪れる地域に愛されるイベントへ成長しました。

●「諸井里山の会」による木道作り

●中学生ボランティアによる塗装作業

●里山公園で遊ぶ園児たち

掛川市
袋井市
磐田市

とうもんの里

とうもんのさと

●美しい緑が広がる邑

●子どもたちが行う生き物調査

美しい稲面に囲まれた邑

掛川、袋井、磐田の3市にまたがる南遠州の平野部には、広大な水田が広がっています。田面にそよぐ風と抜けるような青空、お年寄りの知恵、小さな生き物たち。ここでは、農村が持っている「大切なもの」がたくさん見つかります。

農村の魅力を堪能!

邑の中にある「とうもんの里総合案内所」には、農業体験やウォーキング、生き物調査、味噌づくりなど、農村の魅力を堪能できる豊富なイベントメニューが用意されています。詳しい内容はとうもんの里ホームページでご確認ください。

●のどかな茶園風景

●とうもんの里　総合案内所

●採れたての農産物を販売する「とうもんの里」

袋井市

いまい保全の会

いまいほぜんのかい

●黄金色が美しい田んぼ

●はざ掛けを行う今井小学校の5年生

ふるさと愛の醸成を目指して

「いまい保全の会」指導のもと行われている「田んぼの楽校」では、今井地区の小学生が野菜の栽培や一連の米作り、しめ縄作り等を体験します。自分たちで作ったお米を味わう収穫祭も行われ、全てがひとつに繋がるこの体験は食育のまたとない機会となっています。

農作業で広がる地域の絆

様々な活動を通じて会員相互の交流が深まり、気心が通じ合うようになることも。おかげで用水の補修や泥上げ、農道の整備、草刈りなど、農地の多様な保全活動に円滑に取り組むことが可能となっています。今後も子どもの笑顔と若者の活気に溢れた邑を目指します。

●しめ縄の作り方を学ぶ生徒たち

●「一木一果」で育てられるクラウンメロン

●収穫祭でのおにぎりと味噌汁作り

御前崎市

カカシ祭りの里 新野

かかしまつりのさと　にいの

●大勢の家族連れで賑わう「新野カカシ祭り」

●イベントも実施されるハイキングコース

力作揃いのカカシ祭り

直虎の祖父・左馬助公の里でもある新野。歴史遺産や豊かな自然を次代へ受け継ぐべく、「新野未来塾」は「新野カカシ祭り」を開催し、コミュニティの場を創出しています。毎年10月、川沿いに40体以上のカカシが立ち並ぶこの祭りには、多くの人が訪れます。

新野の宝を巡るハイキング

新野未来塾は10年以上かけて草刈りや木の伐採、案内表示の設置等を行い、草木に覆われていた道をハイキングコースにしました。自然を満喫しながら、新野の宝である様々な史跡を見ることができます。若い人にも邑に興味を持ってもらうべく、彼らの挑戦は続きます。

●地域農産物の直売所「よってかまい」

●新野左馬助公献茶祭の様子

●四季折々の花が楽しめる新野水のめぐみ公園

御前崎市

朝比奈

あさひな

●鯉のぼりが泳ぐ邑

●あらさわふる里公園と邑を支える皆さん

美観は最大の地域保全

豊かな緑と水に恵まれた「あらさわふる里公園」。四季折々の花が咲き誇るこの公園では季節ごとのイベントも実施され、人々の集う交流拠点となっています。花で彩る公園の美しさは、地域を守る皆さんの心そのものです。

朝比奈のお茶を世界へ

朝比奈で作られている早生品種のお茶「つゆひかり」。まろやかな味で渋みも少ないことから、海外の方々にも親しまれています。グローバルな認証を取り北米やアジアなど世界の国々へ輸出されている朝比奈茶。これからも地域内外多くの方々に愛されることでしょう。

●朝比奈茶の手摘み体験

●雄大に泳ぐ鯉のぼり

●米栽培も盛ん

菊川市

千框の棚田

せんがまちのたなだ

●千框棚田

●昭和40年代の棚田の景色

先祖が遺した宝物

菊川市倉沢にある千框棚田は、一度は荒れ果ててしまったものの棚田を愛する人々の力で少しづつ復元され、今では美しい景観と豊かな自然、そして人々の笑顔が戻り、「つなぐ棚田遺産」にも認定されました。

棚田を愛する人のつながり

「千框の棚田」を子どもたちに伝えていこうと、平成22年に「NPO法人せんがまち棚田倶楽部」を設立。オーナー制度の導入や静岡大学の棚田研究会をはじめとするボランティアの受け入れや一社一村しずおか運動等、さまざまな手法で棚田を未来に繋げる活動に励んでいます。

●多くの人で賑わう稲刈り

●静岡大学「棚田研究会」

●あぜ道アート

菊川市

嶺田用水の里

みねだようすいのさと

●用水の恵みを受け咲き誇るレンゲ

●用水を完成させた中条右近太夫を祀る井之宮神社

江戸時代に築かれた農業用水

農地を渇水から救うために築造された農業用の水路、嶺田用水。1600年代に完成したと言われており、この邑は用水のおかげで広大な耕地を手に入れました。現在、水稲、アローマメロンなど様々な栽培が盛んに行われています。

地域に多くの恵みを

嶺田用水は水田にも恵みをもたらしています。約1haの水田にはレンゲの花が咲き誇り、毎年レンゲの植栽と花摘みイベントが開催されています。また、この邑では地元農家が朝市「おばあちゃんのやさい畑」を開催しており、お互いがよりよい農作物を持ち寄っています。

●ハウスで栽培されるアローマメロン

●神社に隣接する井之宮公園

●国の重要文化財「黒田家代官屋敷」

菊川市

こがね色の里

こがねいろのさと

●令和4年度の田んぼアート「ホワイトタイガー」

●多くの人が参加する稲刈り作業

広大な田んぼがキャンバスに

黄金色に染まる広大な田園風景を元に名付けられた「こがね色の里」では、平成20年から田んぼアートが開催されています。田植えや鑑賞会、収穫祭と一連の行事が企画されており、多いときには1日300人の来場客が訪れるほどの一大イベントとなっています。

多様な参画による地域づくり

美しい田んぼアートを完成させるためには周辺の整備も不可欠です。この邑では地元自治会、小中学生、老人クラブなど多様な参画による地域づくりが行われており、地域一体となって農地や農道のり面、水路の泥上げ等の環境保全に取り組んでいます。

●田んぼアートに使うため品種ごとに分けられる古代米

●目印のついた田んぼに田植え

●鑑賞会の際行われる地場産品の販売

森町南部

もりまちなんぶ

●一面に広がるとうもろこし畑

●レタスのビニールトンネル

甘くて柔らかいトウモロコシ

平野部に大規模な水田が広がるこの地域では、甘々娘というトウモロコシが有名です。収穫時期になると沿道には直売所が数多く並び、連日県外を含む多くの客で賑わい、朝7時からの販売より早く並ぶ人もいます。

豊かな土地をフル活用した活力ある農村

町の7割が森林で、南西部の平野に広がる肥沃な水田は太田川の豊かな流れの恩恵を受けています。この水田では、水田3倍活用農法が採用されており、水稲、レタス、スイートコーンをローテーションして1年中品質の高い農産物が生産されています。

●県内外の客が買い求める森町の甘々娘

●一面に広がるレタス畑

●収穫されたレタス

天方

あまがた

●豊かな自然が残る天方

●神様からの贈り物「半夏生」（第5回農村の魅力フォトコンテスト佳作_牧野光伸）

半夏生は森の神様からの贈り物

国内でも有数の半夏生の自生群生地である天方。群生地までの散策道は「てんぽうのさと半夏生」の皆さんが平成28年に蘇らせました。歩いて眺めて参加するヘルスツーリズムで、人々に心と身体の健康を提供しています。

郷愁を抱かせる山村風景

遠州瓦や草木染、吉川和紙といった工芸品の数々や明治時代の製氷地である葛布の滝、舗装されていない林道、清流吉川などの人を惹きつける自然や文化が数多く残り、邑人の努力で保全されています。

●清流吉川

●ヘルスツーリズムのお供”手作り杖”

●棚田交流会

森町

一の宮の里

いちのみやのさと

●遠州の小京都「一の宮の里」

●小学生を対象とした生き物調査

遊休農地を有効活用

地域の人々の努力で再生した荒廃農地を54区画に分けた貸農園「一宮ふれあい農園」を平成23年に始めました。格安で借りられること、農家の指導が受けられることが好評で町内外から借り手が来るほどの人気となっています。

地域の魅力を再発見

水田やため池をフィールドにして、環境調査と学習を目的に地元小学生と生き物調査を実施。フナやドジョウ、スッポンなどを捕まえ、自分たちが住む地区に豊かな自然があることを体験してもらっています。地域に密着した取り組みは、今後も長く続いていくでしょう。

●保育園児の田植え体験

●地元メンバーによる水路の清掃

●国登録有形文化財「遠江一宮駅」

森町

歴史と自然が奏でる里山 三倉

れきしとしぜんがかなでるさとやま　みくら

●春には美しい桜が咲く三倉地区

●移住者･住民による鯉のぼりイベント

住民は移住者たちの応援団

移住定住活動に熱心に取り組む三倉では、近年夢を持った移住者が増加。移住者たちの声かけで田植えイベントなどが開催され新旧住民の交流が盛んに行われています。住民たちは移住者たちの相談相手や応援団、時には指導者となって夢の実現をサポートします。

邑の自慢「三倉茶」

肥沃な山地と寒暖差に恵まれて生産されるお茶は「三倉茶」として各種品評会で高評価を得ており、全国に出荷販売されています。渋みが程よく残り豊かな香りと旨味が広がるお茶は、東京などから指名買いされるほど。近年では、有機栽培の野菜を生産する農家も増えてきました。

●アマゴ放流イベントの様子

●邑に広がる立体集落

●許禰(きね)神社例祭の様子

浜松市

地域いきいき共生！恩地町環境みどり会

ちいきいきいききょうせい！おんじちょうかんきょうみどりかい

●邑に彩りを添える景観作物

●食育の一環としての活動

荒廃農地ゼロを実現

恩地町では農業者の減少と高齢化により荒廃農地が増加する中、平成19年に「恩地町環境みどり会」が発足し、農地の保全活動を拡大していきました。食育を通じた子どもたちとの活動や新規就農者へのサポート等によって、荒廃農地ゼロを実現しています。

未来につなぐ若い担い手が誕生

恩地町の株式会社藍ファームでは、恩地町環境みどり会のサポートによって荒廃農地や引退した方のほ場を借りブロッコリーを生産しています。従来の農業から人への依存度が低い農業への転換を目指して、AI によるデータ分析を活用した新しい農業に取り組んでいます。

●農地を保全するための活動

●若い担い手との連携

●毎月開催されるみどり朝市

浜松市

和地ふるさと会

わじふるさとかい

●美しく咲き誇る河津桜

●オイスカ浜松国際高校の皆さんと行った梅の木の剪定

多彩な取り組みを行う和地地区

和地地区では平成19年に複数の地元の団体が連携し「和地ふるさと会」を結成。アソガ地区では荒廃農地を活用して梅林を育成、二反田地区では草木で荒れた堤防に河津桜400本を植樹し名所に生まれ変わらせるなどそれぞれ特色ある活動が進められています。

美しい景観を後世へ

西大山地区では子どもたちを巻き込んだ稲作体験、東大山地区では5万人を超える来場者がある「東大山河津桜祭り」が行われています。各団体で活動内容は異なりますが、「昔ながらの美しい景観を残したい」気持ちは同じ。今後も一体となって邑を盛り上げます。

●季節の花々がお出迎え

●多くの人が訪れる「東大山河津桜祭り」

●休耕田を整備した菜の花栽培

浜松市

夢未来くんま

ゆめみらいくんま

●つなぐ棚田遺産に認定されている「大栗安の棚田」

●邑の原動力「NPO夢未来くんま」の女性たち

主役は地元のお母さん

邑を支える原動力は、地元のお母さんたち。郷土の食文化や山林資源を活かした暮らしを次世代に継承したいという思いを胸に、「NPO夢未来くんま」は女性を中心に設立されました。設立から30年以上、福祉、教育、都市農村交流など様々な角度から邑を創造し活動が続いています。

地域の課題を大きな宝に

食事処や物産館、体験工房など6つの施設が集まった「道の駅くんま水車の里」。ふるさとの味と自然の恵みがぎゅっと詰まっています。中山間地域ならではのシカやクマに悩まされることもしばしばですが、シカやクマからヒントを得たメニューが人気を博しています。

●手作りの加工品･ジビエカレー

●大栗安の棚田（第6回農村の魅力フォトコンテスト優秀賞_池谷珠海）

●棚田ウォーキングの様子

浜松市

銅鐸と水田のふるさと中川

どうたくとすいでんのふるさとなかがわ

●都田川のほとりに広がる水田地帯

●街道沿いに植えられる芝桜

水田風景が地域のつながりを醸成

縄文時代の終わりからすでに稲作が始まっていた中川地区。2,000年以上前から続く水田の風景を維持するため、景観整備・環境美化に地域一体となって取り組んでいます。中川地区へと続く街道には約200mに渡って芝桜が植えられ、訪れる人々の目を楽しませます。

次世代へつなぐ農村空間

この地区の小学生は、5年生になると農家の手ほどきを受けながら田植え体験を行います。ほかにも水路の生き物調査など、地域の農業や農村環境を身近に感じてもらう活動を実施しています。美しい景観と次世代への教育で農業を未来に残します。

●ビオトープで行う生き物調査

●沿道を彩るアジサイ

●地元の特産品を販売している「奥浜名湖田園空間博物館」

浜松市

大好き！渋川

だいすき！しぶかわ

●自然豊かな渋川地域

●邑自慢のキャンプ場

地域一丸となった邑づくり

邑づくりを担うのは、渋川地域の発展と都市と農山村の交流を目的に設立されたNPO法人大好き渋川。約60名のメンバーが林業、農業、狩猟などそれぞれの職種を活かした活動を展開しています。地域一丸となった邑づくりはさらに発展していくでしょう。

都市と農山村の交流拠点

奥浜名湖の山々に囲まれた自然豊かなキャンプ場が邑の自慢です。創立から約45年の月日が流れ、県外からも多くの観光客が訪れる人気スポットになりました。今後は都市部との交流イベントも行いたいと意気込む邑は、新しい人と風を呼び込む挑戦を続けていきます。

●オフロードバイクのトライアルコースも人気

●静岡県内に唯一残る凱旋門

●県指定天然記念物に指定されている渋川つつじ

浜松市

三ヶ日みかんの里

みっかびみかんのさと

●猪鼻湖が眼下に広がる三ケ日地区

●みかんの収穫は今も昔も手作業です

絶え間ない努力と情熱で育つ三ヶ日みかん

全国区の知名度を誇る「三ヶ日みかん」。基盤整備や生産技術革新に積極的に取り組み、労力やコストを大幅削減しながら、付加価値の高いみかん栽培を可能にしています。その高い品質は、邑びとたちの絶え間ない努力によって常に進化し続けています。

加工品で人気を後押し

加工グループ「オレンジ母ちゃん」は、みかんの加工品をＪＡの店舗やイベントなどで販売しています。ふじのくに新商品セレクション最高金賞を受賞した「純しぼり極」や果汁が入った焼肉のタレなど、趣向を凝らした様々な加工品が三ケ日みかんの人気を後押しします。

●加工品づくりに取り組む「オレンジ母ちゃん」の皆さん

●みかん果汁が入った焼肉のたれ

●機械を導入して生産力向上を目指す

浜松市

中郡地区

なかごおりちく

●美しく咲くそばの花

●邑を彩る菜の花畑

未来の「そば処」への道

荒れた遊休地を見た住民が、地域の共有財産となる「けっこい（きれいな）」景観を取り戻したいと花を植えました。そして、食べられたらもっと楽しいのでは、と始めたのが「けっこい中郡」によるそばと菜の花（菜種）の二毛作です。

旧家 鈴木家屋敷

室町時代から続く家柄である鈴木家。徳川家康は浜松に入城した際、周辺の村々の代官の役割を鈴木家へ与えました。また、家康との深いつながりを示す言い伝えに、側室の阿茶（あちゃ）の局（つぼね）を預け、狩りのときなどに頻繁に訪れたとされています。

●菜種から絞った菜種油「なの花便り」

●旧家　鈴木家屋敷

●名物「天竜そば」

浜松市

中ノ町地区

なかのまちちく

●遊休農地を活用した「コスモス畑」

●交流の場となる「げんき食堂」

浜松市の東の玄関口

旧東海道の真ん中にあたる中ノ町はかつて交通の要衝で、歴史と文化が残り、人の交流も盛んでした。現在、その名残りを引き継いでいる「げんき食堂」では、小学生の放課後クラブのような役割を担い、地域の子供と大人が触れ合う場を形成しています。

地域の一体感を生み出す努力

遊休農地を活用して、コスモス・ヒマワリなどの花を咲かせる活動や、ソバの栽培を行っています。地域で育てたソバは地元の老人会や小学校で開催される「そば打ち体験」に使われるなど、地域のコミュニティを図っています。

●歴史的な建造物「まっし蔵」

●地域で育てたそばを使用したそば打ち

●中ノ町フラワーロード

浜松市

村櫛地区

むらくしちく

●村櫛半島

●遊休農地を活用したひまわり畑

環境にも人にも優しい野菜づくり

平成16年の浜名湖花博がきっかけで発足した「むらちゃネット」。浜名湖ガーデンパーク内にある「お食事処むらちゃ」の運営や、公園花壇の整備、子ども向けの自然体験イベント、荒地対策、荒廃農地の整備など、さまざまな活動を行っています。

160年の歴史を誇る村櫛酒販売所

約160年前の万延元年（1860年）に「村櫛酒専売所」として創設されました。安政の大地震（1854年）とその津波の影響で疲弊した状況を立て直すため、村の指導者たちが知恵を出し合い創設したといわれており、地域団結のシンボル的存在です。

●荒地を整備して美しい花畑へ

●浜名湖花博

●村櫛酒販売所

大塚地区

おおつかちく

●ポピーあふれる大塚地区

●大塚地区のオープンガーデン

花咲くたびに強まる絆

浜松市南区、一級河川天竜川と安間川の間に位置する都市近郊の地域「大塚地区」は、オープンガーデンを行うなど地域住民の園芸に対する関心が高い邑です。また、近くには飯田公園としても知られている浜松市緑化推進センターもあり、緑が豊かな地域です。

美しい庭園が邑を彩る

毎年、春になると、ガーデニングに取り組む住民が自慢の庭を開放する「オープンガーデン」を開催しています。大塚地区は県西部地域のオープンガーデンコンテスト入賞の常連です。見る人を魅了する美しい庭園は必見です。

●ご自慢の庭「アリスガーデン」

●浜松市緑化推進センター「飯田公園」

●少年野球チームのさつま芋堀り

浜松市

都田地区

みやこだちく

●都田地区

●小学生を対象にした体験学習

美味しい郷土料理を次世代にも

邑づくりに取り組む「水と緑北都の会」では、地域の小学生と連携して田植えや稲刈り体験を行っています。作るだけでなく、収穫したお米を使って五平餅作りまで行い、農業の楽しさや大切さを次世代につなげる活動に力を入れています。

企業連携で都市交流

新東名高速道路の開通を縁に、NEXCO中日本と連携して地域活動に取り組んでいます。みかんの収穫や野菜の栽培といった農業体験のほかに、地域資源を活用した景観保全活動にも取り組んでいます。地域内にとどまらず、都市住民との交流も活発に行われています。

●NEXCO中日本と行ったみかん収穫作業

●いちご直売所「いちご･いちえ」

●芝桜の植栽

浜松市

～竜ヶ石山～西四村の里

～りゅうがしやま～にしよむらのさと

●蘇った白樫（しらかし）の棚田

●邑人みんなではざかけ作業

はるかな遠景をふたたび邑に

浜松市北区引佐町に位置する白樫（しらかし）の棚田。平成12年から地元の有志の手によって多くの田んぼが復元され、今では壮麗な景色を眺めることができます。収穫のあとには和気あいあいと餅つき大会を開くなど、地域交流の場にもなっています。

悠久の歴史をもつ竜ヶ石山ハイキング

鍾乳洞のある竜ヶ岩洞や国指定名勝の庭園がある龍潭寺など見どころの多いこの邑には、低山でありながら富士山、遠州灘を一望できる山頂が人気の「竜ヶ石山ハイキングコース」もあります。農業や林業を生業とする邑びとによる間伐などによって、美しく整備されています。

●数千年前の鍾乳石がみられる「竜ヶ岩洞」

●自然の営みを1年を通して楽しめるハイキングコース

●竜が残した爪痕の伝説が「竜ヶ石山」の由来

浜松市

いっぷく処横川

いっぷくどころよこかわ

●緑豊かな山あいの景色

●原木しいたけ

原木椎茸の栽培体験でファンづくり

浜松市天竜区秋葉街道沿い、戦国時代に山城のあった光明山のふもとに位置する、周囲を緑の山々に囲まれた自然豊かな山間集落です。昔ながらの原木栽培にこだわった椎茸が名産で、その食べ応えのある厚みと食欲をそそる香りが魅力です。

道の駅に来たらこれがおすすめ!

道の駅おすすめの「しいたけソフト」は椎茸を粉末にしたものが入っており、ほんのり椎茸の香りと風味がする和風のソフトクリームです。また、静岡県産の小麦粉を使用し、地元で採れる食材を入れたご当地蒸しパン「たべまいか」もおすすめの一品です。

●香りがそそる焼きしいたけ

●道の駅「いっぷく処横川」

●椎茸の菌を植え付ける子どもたち

浜松市

そばの里づくり 佐久間

そばのさとづくり　さくま

●都市部とも協働しそばの里づくりを目指す

●大千瀬川のアユ釣り

天竜に咲き誇るそばの花

浜松市天竜区佐久間町は、天竜川水系の清流大千瀬川と相川に囲まれた自然豊かな地域です。以前はどの家庭でも栽培していたそばの文化を復活させたいとそば栽培の和が広がっています。また、大千瀬川で採れるアユを目当てに多くの釣り人が訪れています。

自慢のそばを食べ比べ

佐久間では、毎年1月に地元や県内外の団体が参加し、各地域自慢のそばを提供する「新そばまつり」が開催されています。平成11年から始まったこの催しは、各地域自慢のそばの食べ比べができるとあって、毎年多くの人々で賑わいます。

●佐久間のおそばが食べられるお店「いどばた」

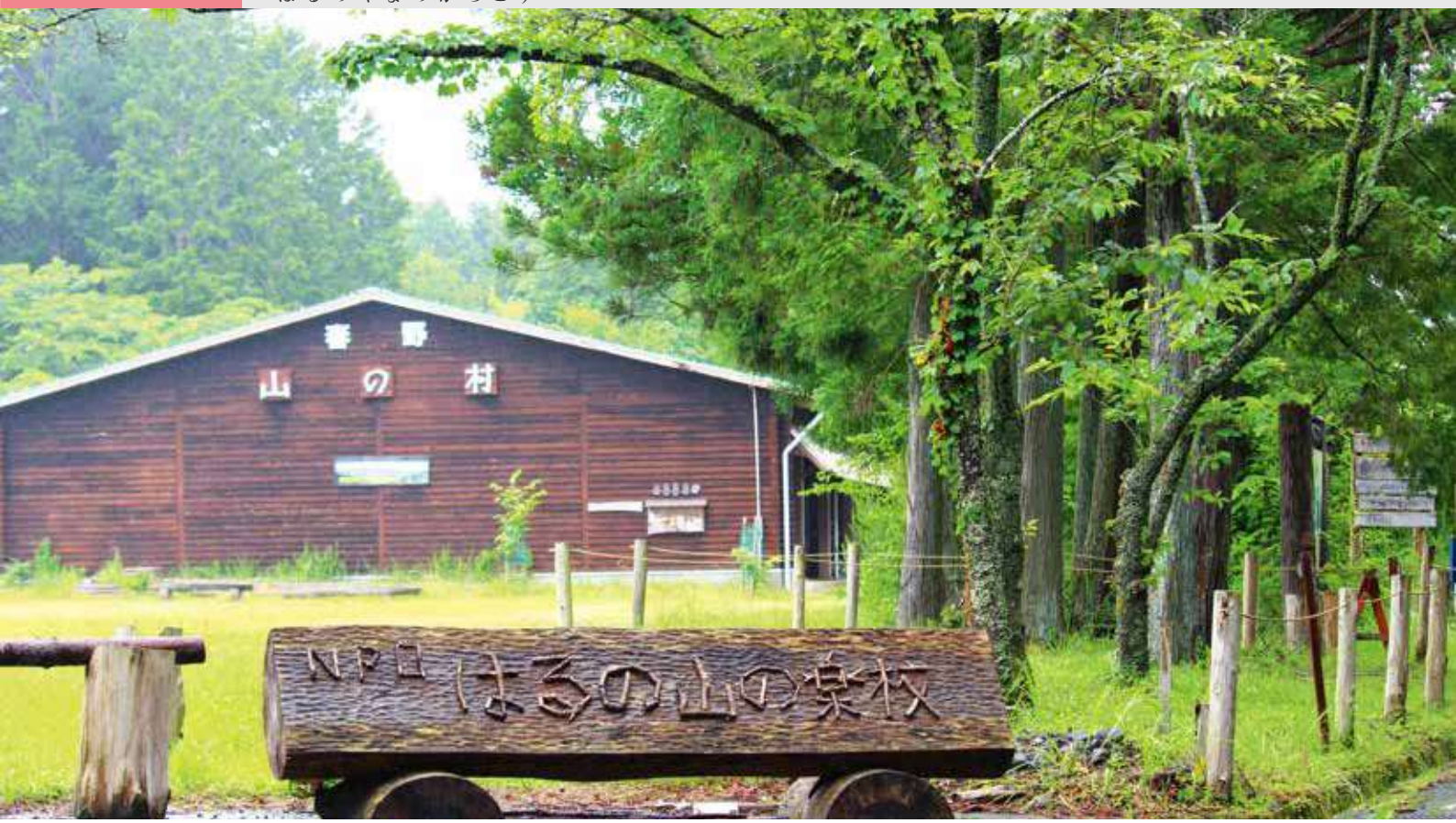
●新そばまつり

●新そばまつりで食べられるおそば

浜松市

はるの山の楽校

はるのやまのがっこう



●邑の活動拠点となる「はるの山の楽校」

●国指定天然記念物の「アカヤシオ」

豊かな自然に囲まれた邑

岩岳山では春になると国指定天然記念物のアカヤシオが咲き乱れます。静岡ではごく限られた場所でしか見ることができず、人気スポットとなっています。また、渡り鳥ならぬ渡り蝶、アサギマダラを見ることもでき、自然豊かな春野には多くのいのちが息づいています。

山の魅力を伝え続ける

平成20年に結成された「NPO法人はるの山の楽校」は、高校生集団宿泊施設「はるの山の村」を運営しています。歴史ある施設において、宿泊事業以外にもジビエ事業、マウンテンバイク事業、キャンプ事業等を新しく立ち上げ、地域の活性化を図っています。

●展望台からの美しい眺め

●七夕の時期に見られるヒメボタル

●合宿等にも利用できる「はるの山の村」

浜松市

ほっと龍山

ほっとたつやま

●活性化施設「ドラゴンママ」

●在来作物「赤芽芋」の保存活動

天空に浮かぶ芋畑

切り立った山あいの集落にある龍山では「NPO法人ほっと龍山」が立ち上がり、高齢者の見守り宅配や移動販売のほか、在来作物で特産品を作ろうと「赤芽芋」を栽培しています。赤芽芋は、活性化施設「ドラゴンママ」にて甘辛い味噌だれで味わうことができます。

静岡県棚田等十選「瀬尻の段々茶園」

龍山には静岡県棚田等十選に選定されている石積みの茶園「瀬尻の段々茶園」があります。高低差は100mあり、ほぼ絶壁の山の斜面の石を切り出し積み上げられた石滝に、先人の苦労と偉大さを実感することができます。

●収穫数の少ない貴重な赤芽芋

●瀬尻の段々茶園

●茶園でのお茶摘み

浜松市

ひずるしい鎮玉

ひずるしいしずたま

●邑に広がる田んぼ

●多様な生物が潜むビオトープ

田舎暮らしの素晴らしさを体験

「ひずるしい」は「まぶしい」を意味する遠州弁です。ひずるしい田舎暮らしができる邑を目指して、「NPO法人ひずるしい鎮玉」が中心となり、遊休農地を活用した田んぼオーナー制度の実施、カフェの開設等様々な活動を展開しています。

地域の皆で作ったビオトープ

この邑には地域の小中学生と作ったビオトープがあり、シーズンには天の川のようなホタルの群れを見ることもできます。他にも、幼稚園児が生き物を観察し豊かな自然に親しむこともでき、地域住民のつながりをつくるスポットとなっています。

●子どもたちも参加する田植え体験

●国重要指定文化財の鈴木家住宅

●地域で栽培したクロモジの葉を使用したハーブ茶

浜松市

らびりんすゆうとう

らびりんすゆうとう

●地域全体を巻き込んで行う稲作

●子どもも大人も一緒になっての「すココン祭」

「すココン祭」で邑に活気を

雄踏町で古くから行われ、約50年前に途絶えた伝統行事を、平成21年に現代風にアレンジして復活させました。昔の良きもの、大切だったものを未来に伝えていきたいという思いで実施しており、年代を超えた楽しいコミュニケーションの場となっています。

子どもたちが忘れない故郷を目指して

令和２年からはJAと連携して「田んぼアート」を開始しました。アートのモチーフにはキツネを採用し、「すココン」の風習を伝えています。アートが見頃を迎えると新聞などにも取り上げられ、雄踏の魅力が「すココン」の風習とともに広く発信されています。

●邑人の絆を深める地域活性化プロジェクト

●子どもたちに伝統行事を伝える取組

●JAと連携しての田んぼアート

浜松市

水窪地区

みさくぼちく

●山々と清流に囲まれた自然豊かな集落

●在来種「ネコアシアワ」の収穫の様子

水窪の伝統文化を後世に継承

水窪地区は、祭りや民族芸能などの文化や釣りのできる清らかな小河、山の恵みを味わうジビエ料理など魅力がいっぱいです。現在、先祖代々受け継ぎ守られた種を使い、雑穀や水窪じゃがた（在来種のジャガイモ）を遊休農地で栽培しています。

「つながる」ことで人は元気になる

（有）春華堂と「一社一村しずおか運動」を締結し、在来種の一部を使った新商品の開発・販売を行っています。また、藤枝北部高校や静岡銀行も協働に加わり、発酵食品の商品化や研修フィールドの展開など、様々な活動を行っています。

●重要無形民俗文化財「西浦田楽」

●研修「しずおかキッズアカデミーin水窪」

●水窪地区×(有)春華堂「栗餅みさくぼ」

浜松市

久留女木の棚田～竜宮小僧伝説の邑～

くるめきのたなだ～りゅうぐうこぞうでんせつのむら～

●久留女木棚田

●つなぐ棚田遺産「久留女木棚田」

井伊家の隠し里・竜宮小僧伝説発祥の地

久留女木棚田は総面積約7.7ha、800枚ほどの田んぼがあり、その美しい景観は「つなぐ棚田遺産」にも選ばれています。最上部には地域の伝説にも登場する「竜宮小僧」と呼ばれる湧水があり、今も棚田を潤す水源となっています。

棚田に必要な「自ら耕作してくれる仲間」

久留女木棚田は、①資金的支援の「竜宮小僧サポーター」、②田植えや稲刈りなどの「稲作体験会」、③年間を通して耕作作業を学べる「棚田塾」、④農地を貸与されて自主的に耕作できる「耕作会員」と、4段階の関わり方があります。棚田の健全な継承に挑戦しています。

●特別栽培米「直虎の里」

●稲作体験会

●棚田の耕作について学ぶ「棚田塾」

浜松市

美竹林と極旨野菜の里

びちくりんとごくうまやさいのさと

●広大な地で行われる施設園芸

●緑の谷のごちそうテラスCoCoChi

「問題を期待に」変える邑づくり

課題となっていた放置竹林の伐採を行ったはいいものの、伐採後の竹の処理が更なる課題に。竹が持つ成分を分析したところ、抗菌作用や腸内環境にいいことが判明しました。粉状にし、食料や肥料、飼料として活用することで「問題を期待に」変えることに成功しました。

竹を使って地域づくり

地元野菜を使った農園レストラン「緑の谷のごちそうテラスCoCoChi」では、竹パウダーを混ぜたパスタやヨーグルトのほか、地元で採れた新鮮な野菜を使った料理を提供しています。地元の女性が活き活き活躍できる場にもなっています。

●邑特産の三つ葉

●里山体験イベントも開催

●大振りで味が良いと評判の筍

浜松市

花桃の里

はなもものさと

●地域の観光スポットである「夢のかけ橋」

●花桃まつりの様子

花桃の華やぎと邑の活気

昭和の初め、浜北で花き栽培を営む人が集落の家々を訪れ、花桃の苗を植えさせてもらいました。見事に根付いた花桃は、今では集落全戸の庭先で桃色の花を咲かせるようになりました。地域に華やかさをもたらした花桃は、地域が結束するきっかけにもなりました。

山間の桃源郷

道の駅花桃の里は、眼前にダム湖が広がる観光客の人気スポットです。余計な保存料を使わず、地元のお母さんたちが丹精込めて作る料理は観光客から大好評です。豊かな自然と人々の活気があふれる花桃の里は、自然と人が共生する桃源郷のようです。

●道の駅　花桃の里

●道の駅に並ぶ野菜や加工品、民芸品

●隠れた名物の手作り饅頭

浜松市

潮騒響くたまねぎの里篠原

しおさいひびくたまねぎのさとしのはら

●一面に広がる玉ねぎ畑

●「はるたま」を栽培する邑の皆さん

邑一体となって作り上げる玉ねぎ

篠原の新玉ねぎ「はるたま」は、「日本一早い玉ねぎ」として出荷される名産。しかし砂地ゆえに、排水路の泥上げを怠ると詰まりやすく玉ねぎの根腐れを招きかねません。そこで「みんなで泥上げ」を目標に、年2回、約500名が参加する大規模な泥上げを実施しています。

地域の宝を未来に繋げるために

JA出資による農業生産法人「とぴあふぁー夢」との協働で荒廃農地や遊休農地が蘇り、農業未経験者も含めた若手農業者が増加する篠原。「はるたま」の知名度向上、そして新たな伝統づくりへの挑戦はまだ始まったばかりです。

●地域一体となって行う泥上げ

●美しい遠州灘が見渡せる

●大きく成長した玉ねぎ

湖西市

新所水とみどりのプロジェクト

しんじょみずとみどりのぷろじぇくと

●湖畔に色づくアジサイ

●地域一体となって創り上げた景色

湖畔に色づくアジサイと邑の絆

浜名湖の西に広がるのどかな田園風景の新所では、田植えの時期が終わるとともに3,000株以上のアジサイの花が一帯を染め上げます。ほとんどが「新所水とみどりのプロジェクト」によって植栽されたもので、色とりどりの花々が地域住民によって守られています。

農業の大切さややりがいを継承

新所水とみどりのプロジェクトでは、小学生対象の農業体験を15年以上行っています。1～5年生まで毎年違った作物で行われ、父母も一緒に参加することで親世代にも農業を理解してもらうきっかけに繋がっています。

●小学生の農作業体験

●農作業体験には父兄も参加

●県の無形文化財である女河八幡宮例大祭神事

湖西市

神座里山多夢の会

かんざさとやまたむのかい

●絶滅危惧種に指定されているトキワマンサク

●トキワマンサクを楽しむ人たち

地域で守り、地域づくりに活かす

神座地区は、4月中旬から下旬にかけて黄緑白色の花を咲かせるトキワマンサクの群生地です。この樹木は、国内では熊本、伊勢、湖西にだけ群生し、絶滅危惧ⅠB類に分類され、静岡県の天然記念物にも指定されています。

トキワマンサクで繋がる邑びと

邑づくりを行うのは「神座里山多夢の会」。トキワマンサクの保護・育成だけにとどまらず、遊休農地の活用、農業用施設の管理、地域の交流行事など年間を通して様々な活動を行っています。会の活動は地域交流の架け橋になっています。

●神座里山多夢の会による活動

●遊休農地を活用した景観形成

●東雲寺で行われる摩利支天大祭

湖西市

佐吉の里・山口

さきちのさと・やまぐち

●水田が広がる山口の風景

●豊田佐吉翁顕彰祭の様子

世界的発明王を生んだ誇り

トヨタグループ創始者の生誕地「佐吉の里・山口」。10月30日に開催される「豊田佐吉翁顕彰祭」は、国内外に97件もの特許を取得して発明王と呼ばれた豊田佐吉の功績をたたえる邑の一大行事です。発明王の故郷である誇りは、邑の活力となっています。

地域みんなで邑づくり

過疎化や高齢化が進む中、農村風景を守るために立ち上がったのが「山口保全組合」。農地や農業施設の維持管理を行いながら、水田の広がる美しい農村景観を守る活動を行っています。地域みんなで持続可能な邑づくりを行っています。

●豊田佐吉記念館

●通常の温州ミカンより大きいのが特徴の山口のミカン

●地域の景観保全活動

湖西市

日本一前向きな地区！前向

にほんいちまえむきなちく！まえむき

●日本一前向きな花畑「前向花畑」

●「インスタ映え」を目的に多くのカメラマンが訪れる

荒れ野原を美しい花畑に

数年前まで地域の人たちが散歩を躊躇するほど荒廃農地が広がっていた前向地区。平成29年度からNPO法人ハピネス湖西が「のどかな田園風景」をスローガンに掲げ、花畑へかえる活動を実施。今では朝晩にウォーキングを楽しむ人が見られるほどになりました。

地域みんなで前向きに!

農用地や施設管理、地域の草刈り活動は、住民とハピネス湖西が連携して行っています。地元の園児を招いて花の種まきなども実施し、地域一帯を巻き込んだ活動が展開されています。前向きな発想と心意気で未来に花を咲かせる前向地区から今後も目が離せません。

●ふるさと納税の返礼品として花畑のオーナーになれる取組も

●園児を招いて行う花の種まき

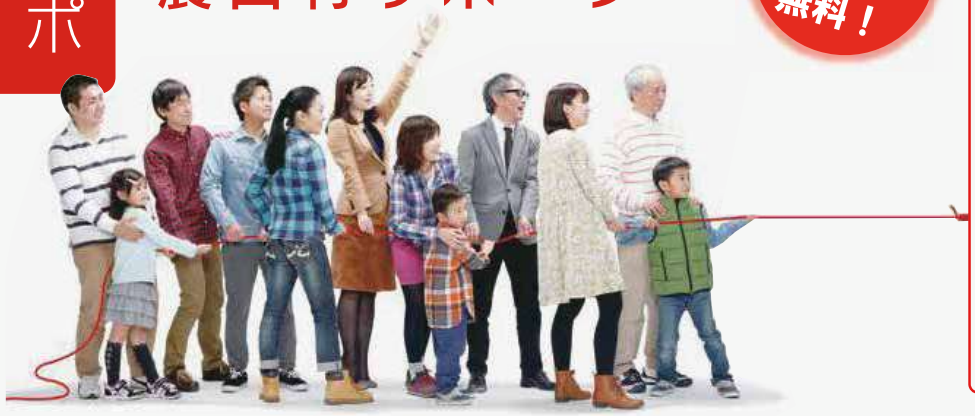
●荒廃農地の復活活動

むらサポ

しずおか農山村サポーター

登録費 年会費 無料！

はじまっています！
あなたと農山村が
いきいきつながる世の中が。



来て！食べて！見て！魅力いっぱいの農山村を応援しよう

オフィシャルウェブサイト
www.shizuoka-murasapo.net

しずおか_むらサポ 検索

◀ 法人・団体サポーター登録はこちらから。
「むらサポ」活動事例紹介を見ることもできます！

登録フォームにメールアドレス等の必要事項を入力すれば登録完了！ 農山村の旬な情報満載のメルマガや広報誌等をお届けします。
企業ロゴ・農山村への応援メッセージをいただければ、「むらサポ」HPでご紹介させていただきます！

農山村にかかわる相談にぜひご活用ください！

相談無料

むらづくりワンストップ窓口 にようこそ

「○○について勉強したい！」「地域資源の掘り起こしや、新たな活用を考えたい！」「企業と連携して、新たな取り組みをしてみたい！」「むらづくりを応援したい！」「農産物を活用したビジネスをしたい！」など、相談事がありましたら、お近くのワンストップ窓口へご連絡を！ 窓口がアドバイスやマッチングをお助けします。

農山村でのイベント・ビジネス研修会

地域づくりアドバイザーによる研修会・交流会

情報発信

旬な農山村の情報を「むらサポ」WEB・フェイスブックで広報します

【情報内容の例】
・農山村でのイベント開催
・ボランティアの募集
・農産物販売の開始

連携支援

むらとまちの人々との連携を支援します

【支援内容の例】
・地域の特産品を用いた商品開発
・企業や大学とのマッチング
・他の邑の取組紹介、交流会の開催

各種相談

農山村のよろず相談室を受けつけます

【相談内容の例】
・○○の手法を勉強したい
・邑への移住者を増やしたい
・農業をやってみたい

農山村や企業のよろず相談

出張相談会

むらづくりワンストップ窓口

地域づくりに役立つ研修会や、相談会、交流会も年に数回開催中！
【参加無料】

他の邑とのネットワークも広がります。

県の地域づくりアドバイザーや環境学習コーディネーターが在籍しています。

詳しくは「むらサポ」HPをご確認ください。

農山村と企業のパートナーシップによる地域活性化を目指す

一社一村しずおか運動

企業・農村
手をつなぐ

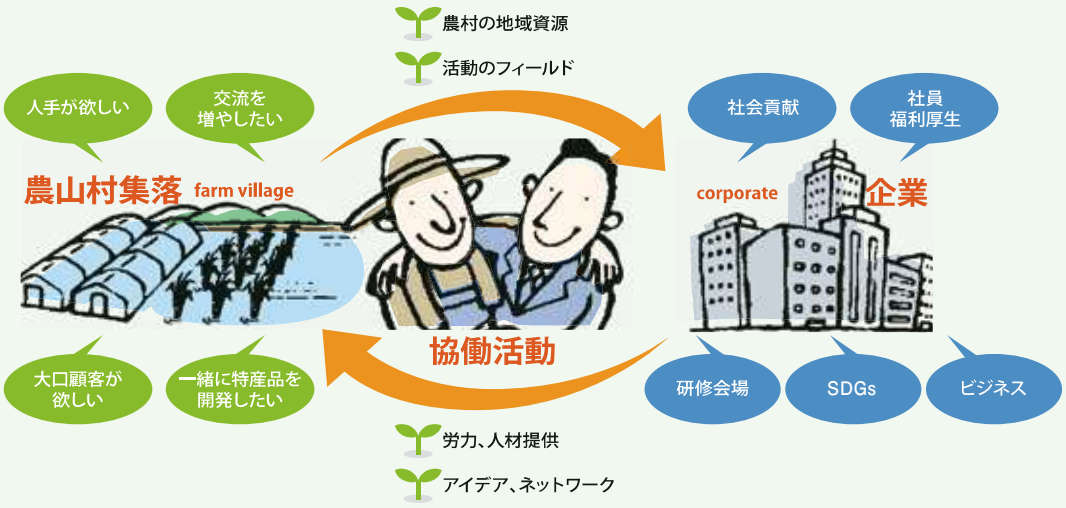
一社一村しずおか運動

応援したい・一緒に活動してみたい

企業と農山村の協働活動を認定します!

- ✓ 農山村、企業双方にメリットのある活動
- ✓ 地域活性化に向けた活動
- ✓ 継続する活動（3年以上）

農山村と企業が対等な関係でパートナーシップを組み、それぞれの資源、人材、ネットワーク等を生かした双方にメリットのある協働活動の実現を目指し、農山村と企業の要望を県がコーディネートする取組です。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な農山村づくりへの支援は、SDGsに貢献します！
私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

つなぐ棚田遺産

令和4年3月25日、国民に棚田地域の活性化や、棚田の有する多面的な機能に対するより一層の理解と協力を得ることを目的に、農林水産省が県内9箇所を含む全国271箇所の棚田を**「つなぐ棚田遺産」**として認定。

しずおか 棚田・里地 くらぶ

会員募集中!

多くの機能を持つ棚田や里地を守るため、保全活動を行うボランティア、「しずおか棚田・里地くらぶ」の会員を募集しています。

入会金・年会費 無料

会員は、農山村にて地域の方のお手伝いとして草刈りや田植えなどの様々な農作業を行うことができます。そのほか、イベントへの参加、会員同士や地元の方々との交流も楽しみのひとつです。皆さんも美しいふるさとを未来に残す活動に参加してみませんか?

活動内容	・復田、田植え、草刈り、稲刈りといった保全活動 ・地域の方やボランティア同士の交流を通じた情報交換

公式HPは こちら

「知事顕彰」の紹介

●知事顕彰制度

登録された邑の中から毎年度、邑づくりの先導かつ象徴的な事例として活発で発展的な活動に取組む邑を静岡県知事が顕彰するとともに、それぞれの邑がめざす姿の実現に向けて助言及び支援を行い、国内外からの憧れとなるような「住んでよし」「訪れてよし」の農の理想郷づくりを推進します。

●顕彰邑選定の流れ

1 邑登録 ▶▶ 2 推進委員会現地調査 ▶▶ 3 知事選定

●推進委員

分野	氏名	所属等
マーケティング	岩崎 邦彦	静岡県立大学経営情報学部教授
農村計画	落合 基継	早稲田大学社会科学総合学術院准教授
芸術	工藤 夕貴	女優・ふじのくに観光大使
景観	黒田 宏治	静岡文化芸術大学名誉教授
農業	小谷 あゆみ	フリーアナウンサー・農業ジャーナリスト
環境	武内 和彦	【委員長】 公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）理事長 東京大学未来ビジョン研究センター（IFI）特任教授
マスコミ	築地 茂	静岡新聞社編集局論説委員兼編集委員
芸術	沼田 早苗	写真家
コミュニティ	渡辺 豊博	特定非営利活動法人グランドワーク三島専務理事

「連合奨励賞」の紹介

●ふじのくに美しく品格のある邑づくり連合奨励賞制度

多くの登録邑では地域の宝（=地域資源）を大切に思い、自助・共助により保全、継承活動が行われています。こうした地道な取組に対し、幅広く光を当て、活動に対する励みや自信、地域活動の誇り意識を醸成するため、連合奨励賞を導入しています。各邑づくりの継続や発展を支援するとともに他地区への波及を図っていきます。

ふじのくに
美しく品格のある邑
Beautiful and Graceful Villages in "FUJINOKUNI"